

紀伊國名所圖會

五之卷
海士郡

JL 4
1833
8





安佑美氣登年加比可美
 良年古能守美耶麻遠由
 布美氣登年加比可美良
 年紀比登々毛志毛

白鳳樓主人詠



紀伊國名所圖會卷之四下目錄

日前宮

七瀬櫻枝

國懸宮末社

國懸宮

神庫

御殿

御炊屋

天御蔭命

天湯津彥命

天伊布玉命

天香語山命

天造母命

天日屋根命

天明玉命

天乳速日命

天古又湯彥命

天伊布玉命

天少彥根命

天坂彥命

天表春命

天神魂命

天斗麻杵命

天伊波志保命

天斗玉命

天三降命

天背男命

天日神命

天月神命

天忍日命

天目一箇命

天押雲命

天神立命

天骨根命

豐玉命

命

天童命

天德津大來目

天德日命

天豐玉命

天日命

天日命

命

天忍日命

天德津大來目

天德日命

天豐玉命

天日命

天日命

命

天童命

天德津大來目

天德日命

天豐玉命

天日命

天日命

命

天童命

天德津大來目

天德日命

天豐玉命

天日命

天日命

命

天童命

天德津大來目

天德日命

天豐玉命

天日命

天日命

命

天童命

天德津大來目

天德日命

天豐玉命

天日命

天日命

命

天童命

天德津大來目

天德日命

天豐玉命

天日命

天日命

命

天童命

天德津大來目

天德日命

天豐玉命

天日命

天日命

命

天童命

天德津大來目

天德日命

天豐玉命

天日命

天日命

命

天童命

天德津大來目

天德日命

天豐玉命

天日命

天日命

命

天童命

天德津大來目

天德日命

天豐玉命

天日命

天日命

命

天童命

天德津大來目

天德日命

天豐玉命

天日命

天日命

命

天童命

天德津大來目

天德日命

天豐玉命

天日命

天日命

命

天童命

天德津大來目

天德日命

天豐玉命

天日命

天日命

命

天童命

天德津大來目

天德日命

天豐玉命

天日命

天日命

命

天童命

天德津大來目

天德日命

天豐玉命

天日命

天日命

命

天童命

天德津大來目

天德日命

天豐玉命

天日命

天日命

命

天童命

天德津大來目

天德日命

天豐玉命

天日命

天日命

命

天童命

天德津大來目

天德日命

天豐玉命

天日命

天日命

命

天童命

天德津大來目

天德日命

天豐玉命

天日命

天日命

命

天童命

天德津大來目

天德日命

天豐玉命

天日命

天日命

命

天童命

天德津大來目

天德日命

天豐玉命

天日命

天日命

命

天童命

天德津大來目

天德日命

天豐玉命

天日命

天日命

命

天童命

天德津大來目

天德日命

天豐玉命

天日命

天日命

命

紀伊國名所圖會卷之五

先福寺
中言神社
身代地藏
金藏院
金剛寶寺
宗低坂
布安松
券の浦
明見社
篋尊
産神聖座

大宅の松
大日堂
明見社
塩竈
名産西瓜
沖釣座
春日神社
松原の鼻
中言神社

小雑貨
汐見橋
装束の松
若宮八幡宮
名所の濱
濱の宮
舟崎観音
船尾
内濱
黒江所坊

雑賀川
三高嶺
福壽院
午歌天王祠
名所の浦
佐々木文宅
正福寺
大野の全圖
祐送寺
黒江所坊

宝光寺
最初拳
願成寺

観音寺

西光寺

大野
名馬浦
地藏堂
九神社
秋戸王子
浄霊神社
亀井其島足跡
中送寺
筆掛松
妙雲院
観音寺

廃釈地蔵寺
榮川
名馬川
船津浄土
浄土寺
観音寺
友白浦
友白松
比良山
後津湊
神宮寺

大空城跡
井松原
生念寺
榎戸
藤白墨
友白王子社
友白屋敷
了賢寺
安綱の圖

山宮寺
井栗の表
廣極楽寺
一と舟の跡
亀井の泉
法本三郎の宅
友白の浦坂
蛭子神社

黒牛沼
龕堂
若宮八幡宮
沖門の所
兼田神社
松代王子
城跡
車岩泉
幡川瀑布
雨乃宮
地福寺
蓮花寺

黒江梳
城跡
池の谷
高里神社
城跡
三上山
延今寺
衣笠山
鏡岩
鬼城大岩
菩提寺
正八幡宮

日挽物の圖
于汚浦
永正寺
阿弥陀寺
徳信院
春日神社
百軒明神
十二所権次社
神宮寺
淨定寺
苗取松
禅林寺

荒池
大新寺
汚村
大野坂
神宮寺
称名寺
願成寺
下居神社
堂の跡
釈迦寺
宇野辺回宅跡

雜
久
川

川
持
也
焚
付
紫
小
紅
若
山
画
誰



泛
船
和
歌
浦
次
男
弘
美
韻
扁
舟
一
棹
弱
浦
隈
多
少
風
光
豈
易
裁
偃
浪
彩
虹
橋
樣
絕
書
空
斜
雁
字
行
開
欲
撈
朱
貝
底
深
淺
將
伴
白
鷗
岸
去
來
無
限
烟
波
目
細
夕
坐
思
帝
子
意
悠
哉
先
崖
弘
毅
剛

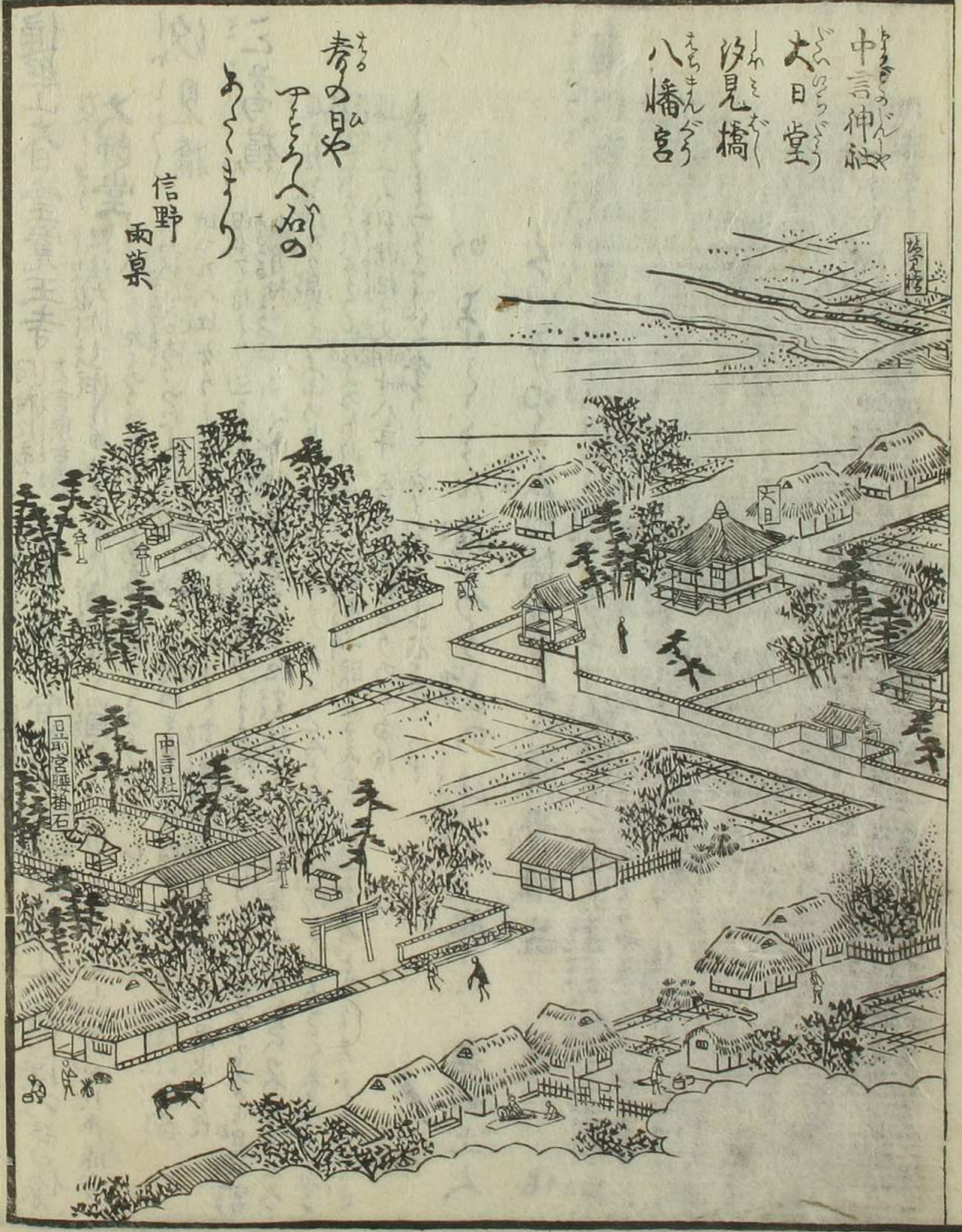
熊
野



中言神社
大日堂
汐見橋
八幡宮

考の目や
アミウ入の
あ〜ま〜り

信野
雨菓



明見社 三ツ村の明見の地ありて三ツ村の入口ありて其の入口にありて天正四年中の兵隊と云々
装束の松 村の中にありて土人の名ありて松の地を装束と云々
来々々 土人の名ありて其の地を来々々と云々
蓮如上人 蓮如上人の名ありて其の地を蓮如上人と云々

海見山福壽院 村のありて其の地を福壽院と云々
大日堂 村のありて其の地を大日堂と云々
本寺十面觀世音 村のありて其の地を本寺十面觀世音と云々

法師堂 村のありて其の地を法師堂と云々
本寺薬師佛 村のありて其の地を本寺薬師佛と云々
塩 村のありて其の地を塩と云々

龜 村のありて其の地を龜と云々
午頭天皇社 村のありて其の地を午頭天皇社と云々

若宮八幡宮
三ツ村のありて其の地を三ツ村と云々
生匠 村のありて其の地を生匠と云々



明見社
 紀三井山
 考日社
 櫻待所
 紀三井寺
 山

紀三井山護國院金剛寺

本寺十二面觀世音

秘龕千手觀世音

洞山堂

鎮守祠

札納半

大師堂

常行念仏堂

三瀑泉

階前懸溜遠秀臺

瀉自崑崙山下來百丈丹崖

鬼工手仙家十二小蓮茶

二王門

禁殺生碑石

の書

古義真言宗

洞山堂上人千手觀世音

秘龕千手觀世音

洞山堂上人千手觀世音

鎮守祠

札納半

大師堂

常行念仏堂

三瀑泉

階前懸溜遠秀臺

瀉自崑崙山下來百丈丹崖

鬼工手仙家十二小蓮茶

二王門

禁殺生碑石

の書

の書

の書

の書

の書

の書

の書

の書

の書

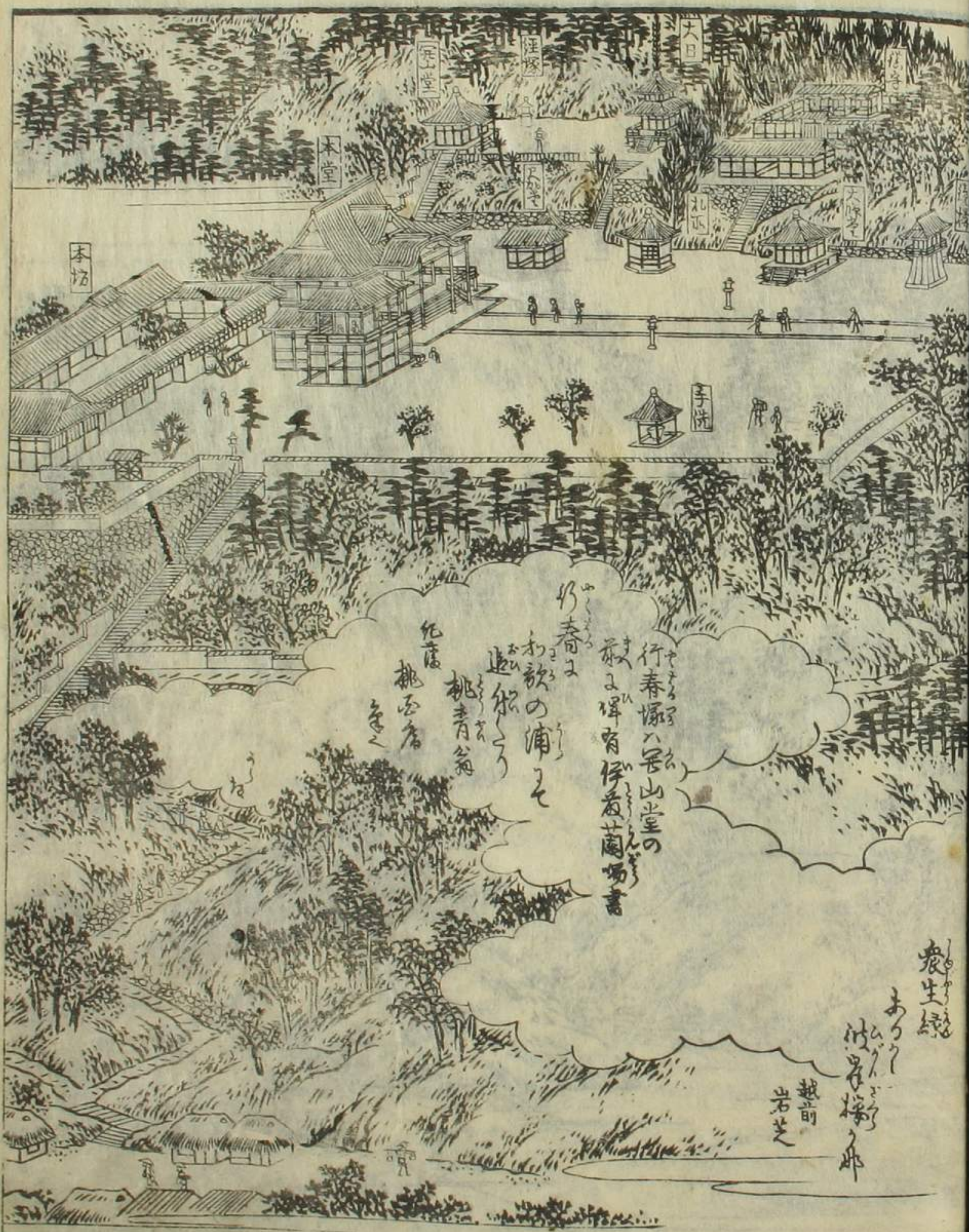
の書

の書

の書

の書

の書



行春源入名山堂の
 寂々閑寂有伊豆山堂書
 春よ
 お秋の浦も
 遠く
 桃青翁
 桃石翁
 桃石翁

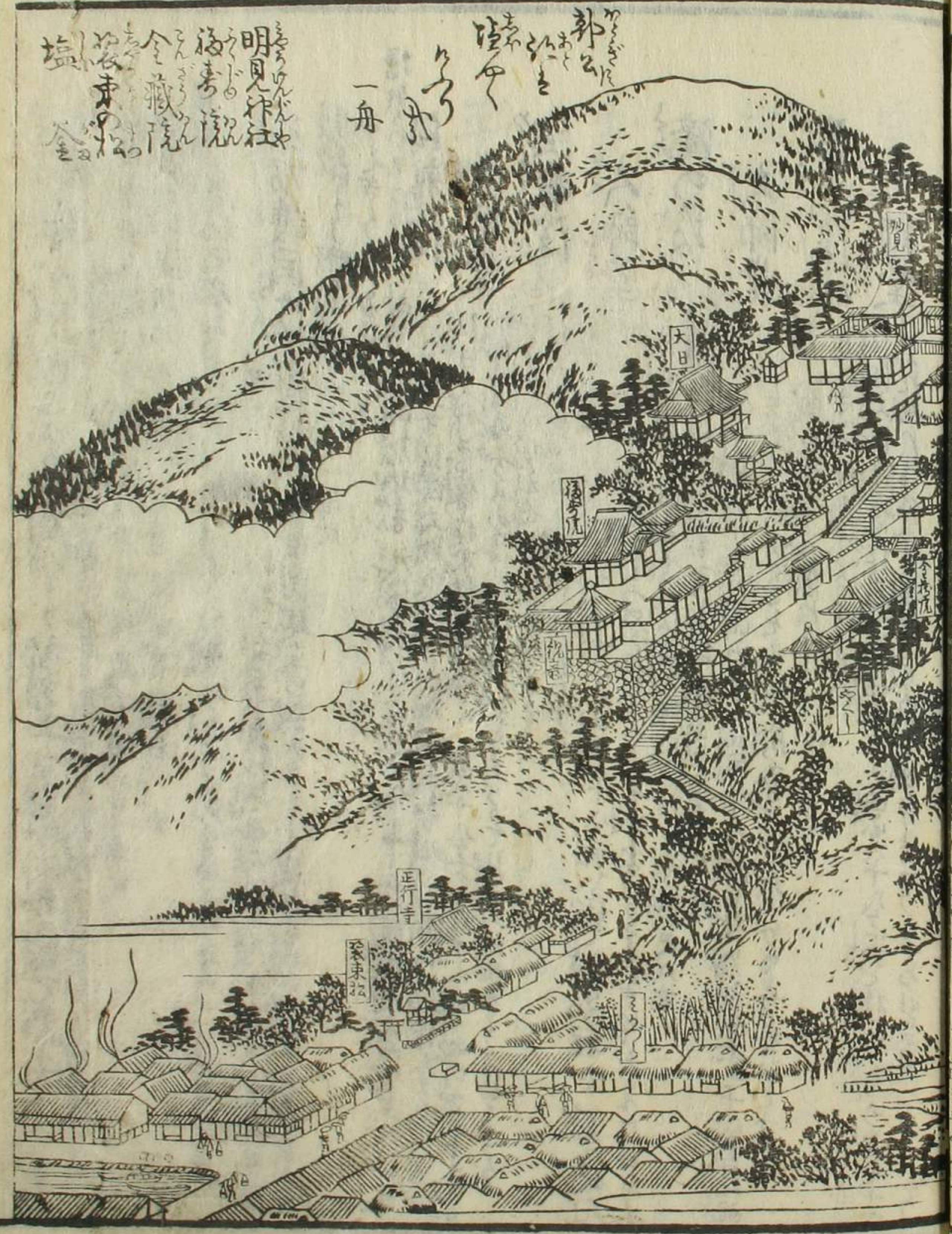
養生録
 あり
 竹君梅之舟
 越前
 若芝

其二

紀三井寺

東地き全田
 聖徳太子
 弘明年中法燈
 師の洞基し
 子八法燈年
 譜詳し





明見山
後山
全藏院
塩

一舟
如泉



紀三井古
如泉

千手堂

宗徳院

應同樹 本坊の境内にあり新く入りて上りて七層の塔を築き...
山有葉樹名應同樹傳是日宮得來每歲七月海又
獻聖燈壬寅年本堂發會浩衆縁余亦得拜云
家集 魚の木の事云々

奉坊護国院 等寺山果報院建立の事ありき...
護国院より眼をむかひて一殿なり

海龍院 教士師匠の像を尺八寸作する...
海龍院の像を尺八寸作するは...
海龍院の像を尺八寸作するは...
海龍院の像を尺八寸作するは...

宝藏院 教士師匠の像を尺八寸作する...
宝藏院の像を尺八寸作するは...
宝藏院の像を尺八寸作するは...
宝藏院の像を尺八寸作するは...

大師堂 教士師匠の像を尺八寸作する...
大師堂の像を尺八寸作するは...
大師堂の像を尺八寸作するは...
大師堂の像を尺八寸作するは...

普門院 教士師匠の像を尺八寸作する...
普門院の像を尺八寸作するは...
普門院の像を尺八寸作するは...
普門院の像を尺八寸作するは...

空性院 教士師匠の像を尺八寸作する...
空性院の像を尺八寸作するは...
空性院の像を尺八寸作するは...
空性院の像を尺八寸作するは...

大師堂 教士師匠の像を尺八寸作する...
大師堂の像を尺八寸作するは...
大師堂の像を尺八寸作するは...
大師堂の像を尺八寸作するは...

松樹院 教士師匠の像を尺八寸作する...
松樹院の像を尺八寸作するは...
松樹院の像を尺八寸作するは...
松樹院の像を尺八寸作するは...

多聞院 教士師匠の像を尺八寸作する...
多聞院の像を尺八寸作するは...
多聞院の像を尺八寸作するは...
多聞院の像を尺八寸作するは...

大師堂 教士師匠の像を尺八寸作する...
大師堂の像を尺八寸作するは...
大師堂の像を尺八寸作するは...
大師堂の像を尺八寸作するは...

平等院 教士師匠の像を尺八寸作する...
平等院の像を尺八寸作するは...
平等院の像を尺八寸作するは...
平等院の像を尺八寸作するは...

穀屋坊 教士師匠の像を尺八寸作する...
穀屋坊の像を尺八寸作するは...
穀屋坊の像を尺八寸作するは...
穀屋坊の像を尺八寸作するは...

大師堂 教士師匠の像を尺八寸作する...
大師堂の像を尺八寸作するは...
大師堂の像を尺八寸作するは...
大師堂の像を尺八寸作するは...

浦内里老の年六十一...
浦内里老の年六十一...
浦内里老の年六十一...
浦内里老の年六十一...

つらやとそんてのちうしん... 龍燈の生... 千手岩...
つらやとそんてのちうしん... 龍燈の生... 千手岩...
つらやとそんてのちうしん... 龍燈の生... 千手岩...

千手岩 龍燈の生 千手岩の中

龍燈の生 千手岩の中

支當山、唐の代宗の... 龍燈の生... 千手岩...
支當山、唐の代宗の... 龍燈の生... 千手岩...
支當山、唐の代宗の... 龍燈の生... 千手岩...

海西南に漲く... 龍燈の生... 千手岩...
海西南に漲く... 龍燈の生... 千手岩...
海西南に漲く... 龍燈の生... 千手岩...



山
 人
 梵
 僧
 人

周倉と許さんく威徳瓜けけのどきありく
 十面く像を二カに刻に彫刻く
 霊像の固く秘く用くをるく
 上人のより観音の如く山出契符台の時く
 心くきよくして奉るの霊鏡見く新く上人の法目く
 堂んれく四方の備素蟻のく集り魔のく
 渴作のありくをく嬰兒の母とく
 浄土の相く變りく上人向來法奥路く
 ため思の天下番宗萬民快樂のめ手自く大般若經六
 百軸とく中れをく銘の傍塚けく南海の
 新本候忽くて上の得龍は垂りて白く上人此をく
 巴あひくより後佛法世に弘く海をの魚蝦亀も常らる

の記世尊とていふらんをわく將本とて上天の果を結ぶ
この功徳のまゝに報恩の如く例年七月九日
後した此法上の淨燈の如く上人の功徳を世に羅
まると
又願ふ上人の功徳を世に羅
の群衆の化度あり順々の着族よりして皆得脱の
撰とね大龍王を本淨寺の守護神とて
國にふ上人の功徳より此願の如く功徳を世に羅
流度と各功徳なりんや上人の功徳を世に羅
は兼りて上人の功徳より此願の如く功徳を世に羅
女はは海濱にて七種の草を食ふ上人の功徳を世に羅
不淨寺の螺貝鈴錫杖梵淨應日海海樹
あつた七十年の功徳より此願の如く功徳を世に羅

新宮よりたゞまらるるよを衆人の功徳ありて其の真が
とつらん功徳より此願の如く功徳を世に羅
人其餘をなめてゆるたまふその功徳ありて其の真が
海上より此願の如く功徳を世に羅
従ふ上人の功徳より此願の如く功徳を世に羅
この功徳より此願の如く功徳を世に羅
凡維名儲のまらるる功徳より此願の如く功徳を世に羅
以上より此願の如く功徳を世に羅
蓋成りて功徳より此願の如く功徳を世に羅
まらるる功徳より此願の如く功徳を世に羅
日自他の像と遺して功徳より此願の如く功徳を世に羅
了の僧徒報恩の如く例年七月九日
を結ぶとて此法上の淨燈の如く上人の功徳を世に羅



宗祇坂

浦のちも紀三井ちよりきりたり
 景のくも人だれがや紀三井てら
 西後谷 由良 雄

名州山

紀三井山の下あり
 万葉 名州山車西在來吾意千重一重名草円名園 無 名

夫本 紀俊文
 前大納言

日 長覺法師
 保

名州の濱

布川村よりもつたのうらまを
 法探 長人志

後撰

紀國の名々の後と君をいふものなりと國つる

よみ人しん

新古今

蟹のつらみをばさすは名々の後とあひつらる

俊成

玉葉

かほろの今名々の後千名をばさすは名々の後とあひつらる

式子内親王

儂千

浦は入流も名々の後千名をばさすは名々の後とあひつらる

内大臣

新千

あつた今名々の後千名をばさすは名々の後とあひつらる

右衛門督教定

夫木

芭蕉の今名々の後千名をばさすは名々の後とあひつらる

よみ人しん

紀の國の今名々の後と

日

とらやらの今名々の後と名々の後とあひつらる

法正

日

とらやらの今名々の後と名々の後とあひつらる

兼仲

千首

あつた今名々の後千名をばさすは名々の後とあひつらる

定家

千首

あつた今名々の後千名をばさすは名々の後とあひつらる

有家

文木

里つ入流の今名々の後千名をばさすは名々の後とあひつらる

雅經

日

紀の國の今名々の後千名をばさすは名々の後とあひつらる

よみ人しん

家集

あつた今名々の後千名をばさすは名々の後とあひつらる

法輔

後撰

あつた今名々の後千名をばさすは名々の後とあひつらる

法師

家集

あつた今名々の後千名をばさすは名々の後とあひつらる

有原光隆

雪玉

あつた今名々の後千名をばさすは名々の後とあひつらる

内大臣

軒根

あつた今名々の後千名をばさすは名々の後とあひつらる

正殿

十首

あつた今名々の後千名をばさすは名々の後とあひつらる

耕雲

十首

あつた今名々の後千名をばさすは名々の後とあひつらる

十首

あつた今名々の後千名をばさすは名々の後とあひつらる

十首

あつた今名々の後千名をばさすは名々の後とあひつらる

十首

あつた今名々の後千名をばさすは名々の後とあひつらる

十首

あつた今名々の後千名をばさすは名々の後とあひつらる

十首

あつた今名々の後千名をばさすは名々の後とあひつらる

十首

あつた今名々の後千名をばさすは名々の後とあひつらる

十首

あつた今名々の後千名をばさすは名々の後とあひつらる

十首

あつた今名々の後千名をばさすは名々の後とあひつらる

十首

あつた今名々の後千名をばさすは名々の後とあひつらる

十首

あつた今名々の後千名をばさすは名々の後とあひつらる

布申の巻

羅山詩集日

紀列三井寺中置大慈像世傳昔有僧常信觀音住此處一旦

酒後院所製

名草の浦

日正の浦

あつた今名々の後千名をばさすは名々の後とあひつらる

あつた今名々の後千名をばさすは名々の後とあひつらる

あつた今名々の後千名をばさすは名々の後とあひつらる

あつた今名々の後千名をばさすは名々の後とあひつらる

あつた今名々の後千名をばさすは名々の後とあひつらる

あつた今名々の後千名をばさすは名々の後とあひつらる

あつた今名々の後千名をばさすは名々の後とあひつらる

あつた今名々の後千名をばさすは名々の後とあひつらる

あつた今名々の後千名をばさすは名々の後とあひつらる

あつた今名々の後千名をばさすは名々の後とあひつらる

あつた今名々の後千名をばさすは名々の後とあひつらる

あつた今名々の後千名をばさすは名々の後とあひつらる

あつた今名々の後千名をばさすは名々の後とあひつらる

あつた今名々の後千名をばさすは名々の後とあひつらる

あつた今名々の後千名をばさすは名々の後とあひつらる



龍神來。請僧乃俱入水府及其殿。神授一貝一錫杖。其後有二梵鐘出。海鮮人恠之。欲取之。鐘不動。於是僧出見之。撫摩則鐘動而鳴。其聲清亮。繫布於松連之於鐘。進以牽之。所謂布引松是其緣也。既而鐘甚輕。而出。遂置於手樓。爾來七月九日夜見龍灯于松下云。補陀岸下有神僧。夜海鯨音出。應白布緯。松如漆布龍絹。千尺是龍燈。云云。

秀吉公

三千風

名物西瓜

布引村より出ると上品の西瓜は寛永年中流傳より廣州へ移る。其時此の地は肥土の長はけよく瓜を植ふるもよく成る。法人在中にて瓜を賣り。其年中西瓜はたゞの瓜と云ふに云地は瓜を賣るに云々。瓜の味は別なものである。

西瓜

祇南海

麻中碩莫若。暑日功誰加。虹霓彩隨刃。冰霜涼似牙。子傳黑齒國。皮稱綠沉瓜。吾體雖堪轉。赤心豈可差。

西瓜冷り人あは安達りたるは瓜也。よみへん

抱きく西瓜の地。去來

濱宮

毛元村にあり。古村の生土神なり。例は毎年九月廿二日ある。此の地と毛元とあり。ありは浦なり。ありは中なり。ありは元なり。ありは後なり。ありは前なり。ありは浦のありはよるより。日前宮國造家の旧記に云えり。

紀神一殿天照大神一殿日前國造宮

倭姫世記云。崇神天皇五十二年甲戌四月八日遷木乃國奈久

佐濱宮積三年之間奉齋。于時紀國造進舍人紀麻呂良地。御田。

紀國造家記曰。神日本磐余彦天皇東征之時。以神鏡及日矛託天道根命。而令齋祭之時。天道根命奉三種神寶。到于紀伊國名草郡毛

見村。安置。置。神海中。岩上。至于崇神天皇五十二年四月八日。豐御入姫奉

天照大神之御靈而遷于斯邦之名草濱宮之時。日前國造宮海中。岩上

同。近千名草濱宮並宮共住。同五十四年。天照大神又遷于吉備名方濱宮

日前國懸宮。留名草濱宮。無仁天皇十六年。自濱宮遷于名草。乃代宮。即今

秋月村之宮是也。

撰社中言神。此の社と地主。未社。神樂舎。

市腰懸石。此の地の内なる小祠に奉まつり。上古天照大神は此の地に降りて

此名草濱宮と稱し。なり。上古崇神天皇の神世。天照大神の

神靈をたね國笠。色小森。あり。たねひ。にたねも其宮のたね

地とあり。あり。豊御入姫令に命じ。國をたねとせ。先

たねひ。豊御入姫令に命じ。神靈はたねひ。ひらき。ひら

たねひ。神世の五十二年四月八日。日前宮遷于名草。乃代宮。即今

鎮す。神はたねひ。紀國造神田。瓜を賣るに云々。瓜の味は別なものである。



名所
 濱の宮
 琴の浦
 琴浦秋鴻
 八月九月蘆
 花舞三點五
 點屬下港疎
 雨夕陽秋影
 澹相與相呼
 不迷處好將
 山水誠商量
 魚意水田逐
 稻深飛來故
 宿琴浦月碧
 水明沙夢滿
 湘
 祇南海

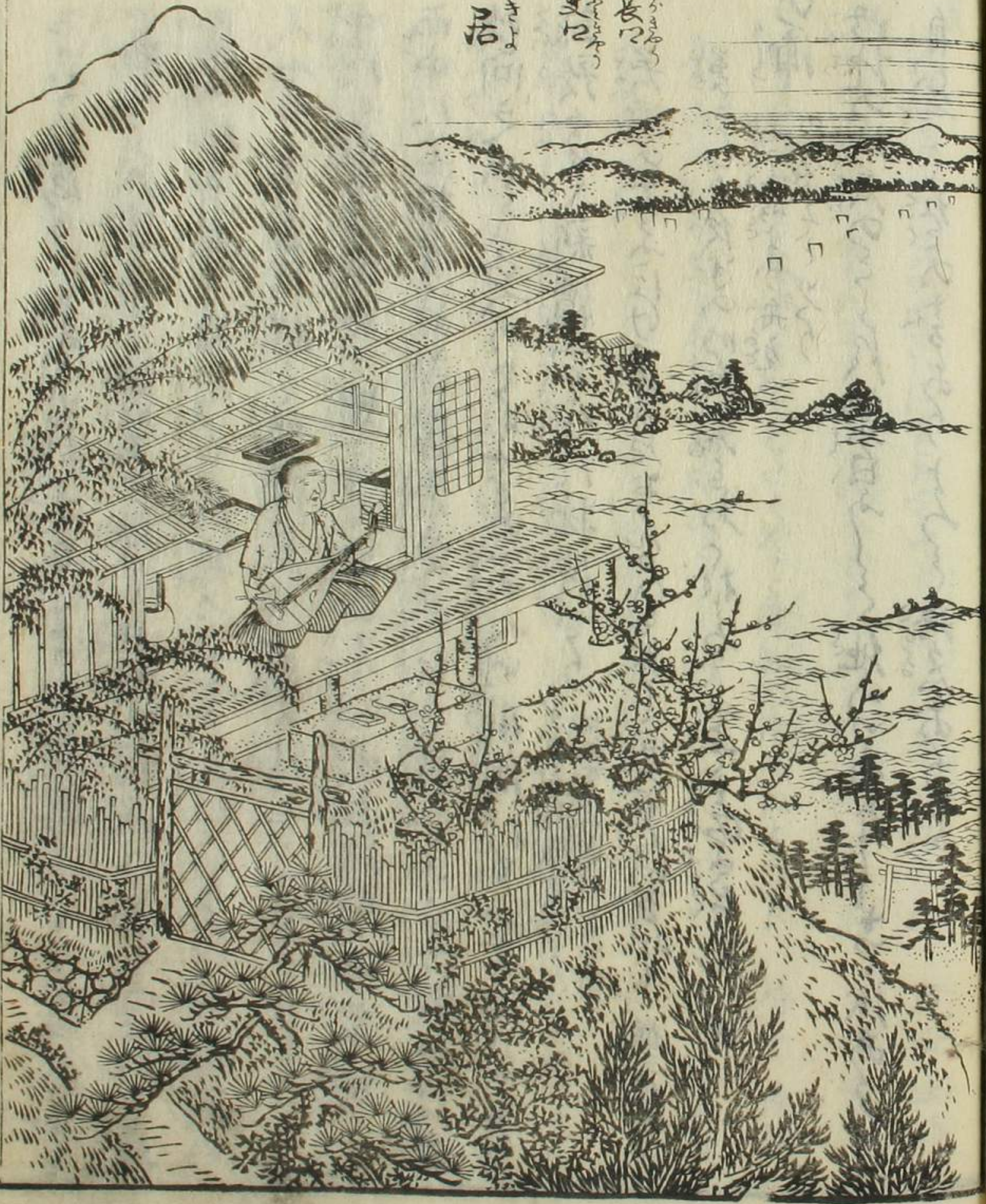
名所
 名所
 備前
 可也

一、國造家の行務よりなりぬまき一殿は舟をふる日前
 國懸の大伴をちし武天皇を征しりやるとれたあつて二統
 の仲養もたしむつていし神靈代の市鏡日前宮のツツ 市神神体一を神代
 の日矛市神体ともまつりて共々大忍を神の前市靈にまき
 まきそと大忍根今も今日もあつてあたまあたらわいそと
 根今二統の仲養を奉りて初ら田圃かを浦より本の本と後
 ると浦をさる岩が根にふかぬあつたりは別日前國懸
 の兩大神なり甲岬より海甲へ三丁ありしもあつたり地より
 此處豊御入姫令沖美と奉りてこれらあつたりは
 此地あつたりなまなりと大忍を神に吉波の名方の瀬文あつたり
 なるまが兩大神のあつたりは地よとむりまきと後無仁天
 皇十六年秋月村の今のち代の宮をさるるつたりなまのまの
 ありしは社殿といふ教をたたすまきと大忍のまのま

有るあつたりは後にもたたりけるぬ大沖林のともあつたり
 あつたりは本玉のえとまき一物之處のさひさるまき林あり
 おつちりゆりあつたりは宮居の祭儀もつたりは後朴
 のまきとまきのまきとまきとまきとまきとまきとまきと
 狂教
 わつはるまきの外ありまきのまきのまきのまきのまきの
 行風
 弘満山善満寺日村のありし善満寺 本尊河弥陀佛善満寺の神像あり
 親孝善満寺の十一面観世音と二尺他ありしと西國二十三正統家親孝の十八面観世音
 當寺の祠を久遠にまきとまきとまきとまきとまきとまきと
 室物記録木の天のあつたりは灰埴とあつたりとまきと
 市鎮座寫日正のまきの岬を神のまきの海中ありしと善満寺に
 市崎觀音堂日正の尾まき
 紀行文退隱奮趾宮山の頂上 ありまきとまきとまきとまきとまきとまきと
 物文の信長の子にまきとまきの職をたつて才六十代の國造

あり 國造家代の其人より多しかたれども
 中後長の博學なりしを其より後小室帝詔してその
 を召し入るに其撰りあるもの百餘を收録し又昭宣に
 侍りて常用してゆく位に叙せしむも後長榮利と心
 とをばりぬる未道のわらひ深し終に應永十二年
 退隱し其居るところ梅敷百株竹千葉とて名を
 標し書軸萬巻を移し其中に讀佳く酒徒琴侶引
 嬉しむる一うの優游し其身を修め流するところの
 おろく新法拾遺新續古今の集りんえり初文風に
 の志は佳し四風を著し其名を虚うせしが其後と
 て位後と位にりる嘗て承享年中丹墀に候し
 帝にその寶劍二口とたれりこれにを褒めよと
 り人々其家風と感ぜり感し

紀伊長門
 紀伊長門
 閑居



ちまのつぼりともむね文のこより貴籍とらうやなほま
 りのわたり追ふく世榮と輝一此地の岡碑と其じて情を凝
 露の散まきあへばさく詩花のなやまたはらう尚付新庭乃
 人々のしらまなほ情の吟詠ゆつと星が情をよもせごうらたう
 中にも東沼禪師が贈序ふ曰梅亭竹園も於琴浦暮煙之上
 而中に有讀書絃誦聲者定正公之廬予予若鞋竹杖遊
 次回之ともさつこれまき其人の風流おもひするふとも
 詠致多し新續古今に採擷せり 以上本館蔵書
 若浦のまきはけりあたらちんふもあまの間のつらき 從三位行文
 同 同
 琴の浦 毛の浦と云ふ舟を
 此地のみぢのしらまなほ情の吟詠ゆつと星が情をよもせごうらたう
 自然とわたり追ふく世榮と輝一此地の岡碑と其じて情を凝

後拾遺

新勅

ちまのつぼりともむね文のこより貴籍とらうやなほま
 りのわたり追ふく世榮と輝一此地の岡碑と其じて情を凝
 露の散まきあへばさく詩花のなやまたはらう尚付新庭乃
 人々のしらまなほ情の吟詠ゆつと星が情をよもせごうらたう
 中にも東沼禪師が贈序ふ曰梅亭竹園も於琴浦暮煙之上
 而中に有讀書絃誦聲者定正公之廬予予若鞋竹杖遊
 次回之ともさつこれまき其人の風流おもひするふとも
 詠致多し新續古今に採擷せり 以上本館蔵書
 若浦のまきはけりあたらちんふもあまの間のつらき 從三位行文
 同 同
 琴の浦 毛の浦と云ふ舟を
 此地のみぢのしらまなほ情の吟詠ゆつと星が情をよもせごうらたう
 自然とわたり追ふく世榮と輝一此地の岡碑と其じて情を凝

道命法師
 法印幸清
 侍從隆教
 衣笠内大臣
 よみ人
 前大納言為氏
 正二位隆教
 前大納言經繩
 仲
 正
 飛鳥井雅永
 家
 隆
 文貞公

紀伊國へてけり前宮國造を京兆おくれり

琴浦松緑

俗所謂布挽松昔有神僧自龍宮獲鐘處其繫組松是也

祇 南海

繫組千古緑 參雲浦得松 風琴自聞 波底華 鯨何處吼 魚人試問洞庭君

春のちや浪も岩も岩のちや

槐亭老人

明見社

内原村西二河より山の麓あり一村の生玉神例祭九月廿三日

春日神社

日向村の南の岳にあり土人の信を奉る

船

補任

船尾御刀祓職事

右以藤原為宗令補彼職之上者守津下

津之事亦世相違ふ令勤仕状如件

建武五年七月十四日

預所判

天照大神

名草彦神

春日明神

名草姫神

四座

日向村の南の岳にあり一村の生玉神例祭九月廿三日

神樂舎

三十六社にあり

箕嶋 推現鼻

日向濱

中言神社

日向村の南の岳にあり一村の生玉神例祭九月廿三日

紀神名草比古名草比女神

本社

名草彦神

拜殿

神樂舎

日向村の南の岳にあり

黒江市堂

玉尊銀寺流

玉尊河祓佛

通津半の山四年奉願寺津相兼第九世大如上人高国法

徑歴あをらひしはたの津坊に遷し津建之の靈

場より其後第十世證如上人文元年六月洛東山科松林

のり市半退去あけし石山の市堂へ法下向ましくなるに其

は天下静後ちるるなる浪華にあつてありしを

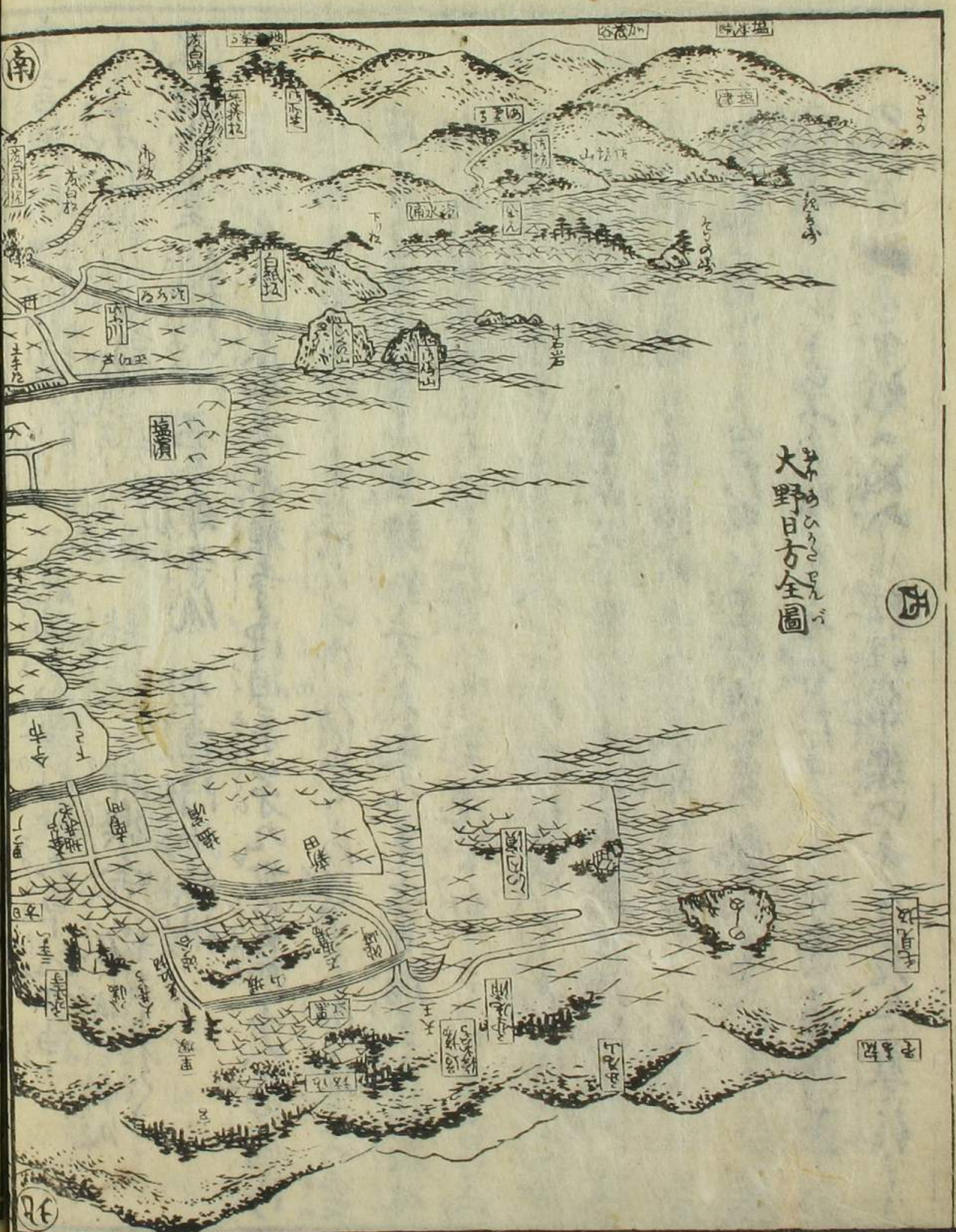
とく通津堂小塾居する人月十九年お方津勒寺山へ移

るを一文の年間運水上人山浦にわく真宗の安

かろ趣意とるたるい末世無智の衆生易行直入の法

門はまはらばしるるをまをたすしゆまを田新由ふ

の門は地力奉忍ふ入し法性常樂のおはれを尊信し

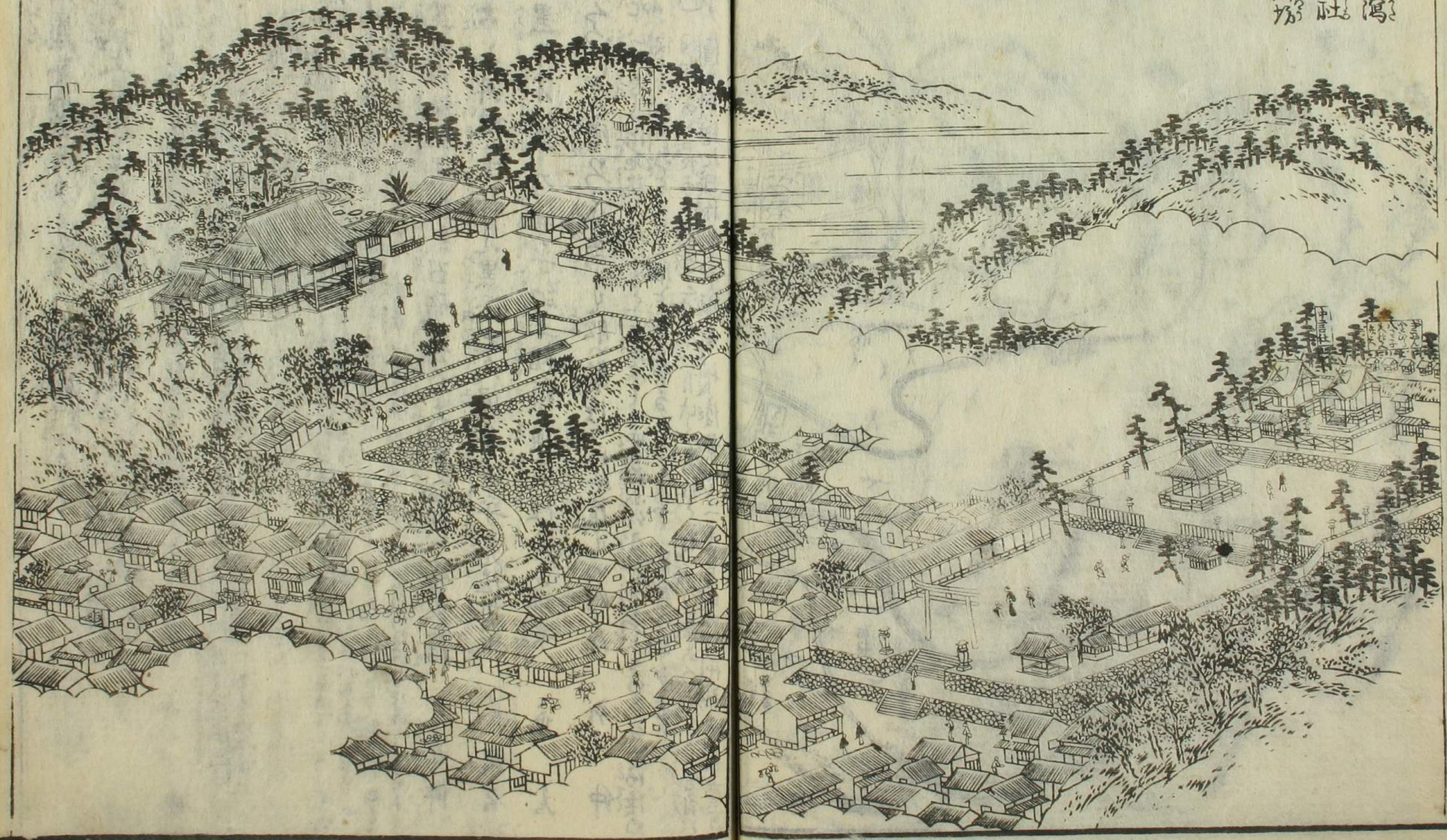


大野日方全圖

四

三

黒牛瀨
中言社
黒江崎





諸國
 桃屋
 栗戸
 ちんちん
 まはらばら
 さしげり
 の



黒江
 桃屋
 栗戸

観音堂

観音堂

辨天山正定震院永正寺

田山半

鎮守弁財天社

當山に原古刹にして開創は其の詳ならず

唯二字の竹堂とて其の遺跡

跡を村老に伝へてありて中比上蓮社

自云景善上人先師日御佛者

上卷上人の遺跡と傳へたるの

山にまゝとておんを以て地とて

信長橋爪氏たるもの上人伝へ

西の二乳の法味伝らるる

の深き信心のわも

喜持一區の梵宮をせり上人

法を以て柱に地を錫瓦註

を以て編まはしむる法雨

上人の御中奥の御とて毎

初行するに送修海會の

とわごやうちり

神門町

妙見宮里神社

天香山阿弥陀寺

照土波不動明王

大師堂

池の谷

奉尊阿弥陀佛

六字名號碑

犯神様田比古

奉尊阿弥陀佛

大師堂



水頭古精舎春至
 烟華濃松際僧歸
 晚殷殷出谷鐘
 中創



高里神社
 永正寺

浮村 今井田村と云

城趾

旧村の山の山上にあり此日生

栗田神社

井田村の北にあり村の

祀神

栗田朝臣祖彦國尊命

あはれ人の春日下の住り大姫大明神とて是も提房王

春日山徳道院

旧村の北にあり古義

本寺地藏尊

大師堂

旧村の北にあり春日の山より

大野坂

旧村より北にあり春日の山より

松代王子

春日山の西のふりてあり石あり神幸池と云松代王子次と云松代王子有音

こ上り

春日山より上り松代王子次と云松代王子有音

此の山にありては松代王子次と云松代王子有音

凡そ斜きうらむ春日の日の傾くとき

春日神社

春日山の北にあり

祀神國忍人命

本國神名帳云

本地堂本尊釋迦佛

座像あり

玄雲山金剛院神宮寺

大師堂

春日山の北にあり春日の山より

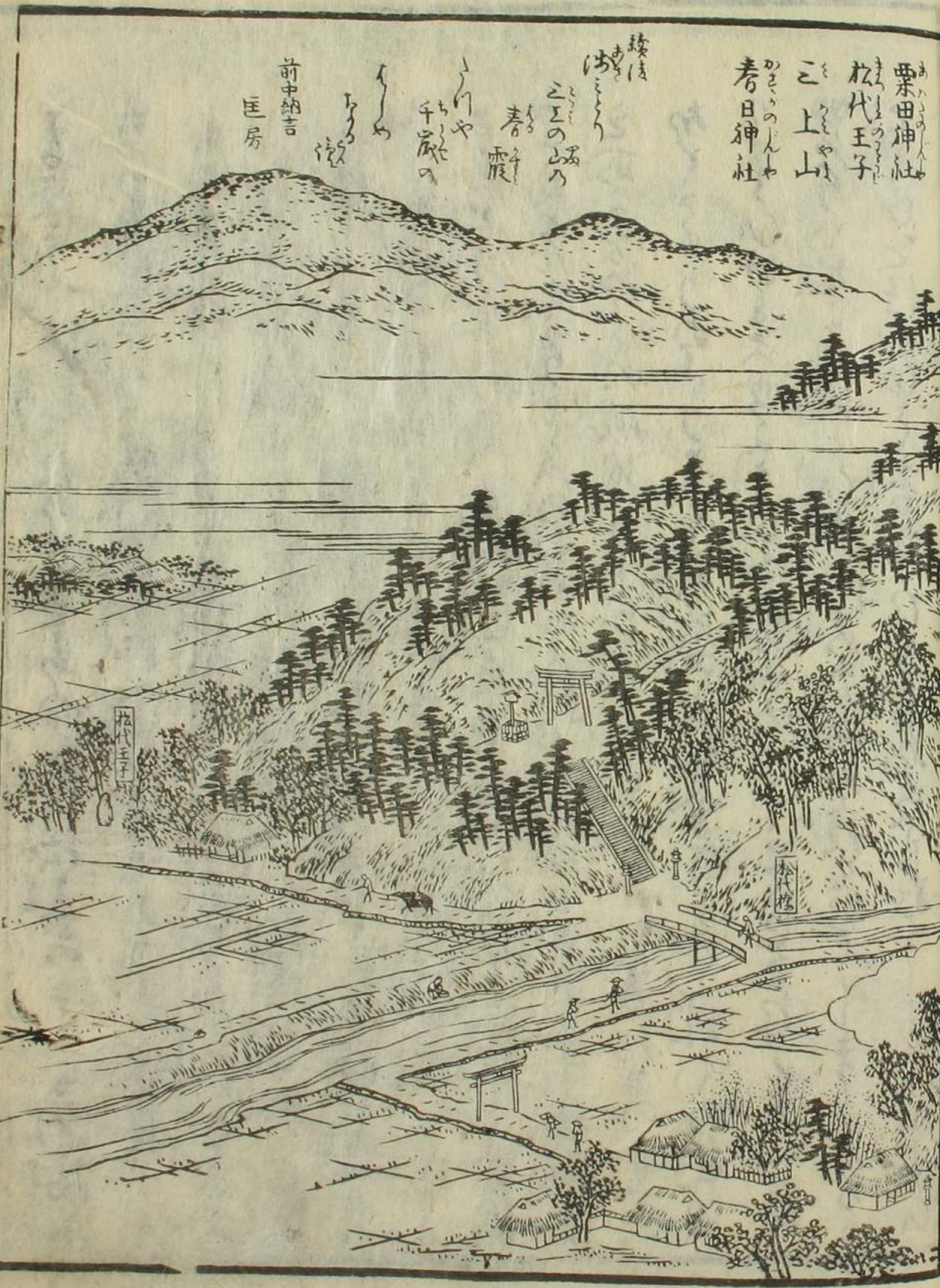
本當社の勧誘の年曆之を以て其監觴とてうらむ中

古大野坂敗落の火の餘煙あはれ羅のく荒蕪はた

林とい瑞籬もさるるうらむ一は御老集會一うらむ

社檀をいさるるうらむ

元弘三年の春日塔宮護良親王南都般若寺より松尾路へ



前中納言
匡房

千代の
春の
花の

松代

三上
の山

栗田神社
松代王子
三上山
春日神社



松代
栗田の
松代王子
三上山
春日神社
吐竜



重根
楊梅

ともたまたまへしおらなむともあつて仲秋美あり日も夕陽ふ
 ちろりたる早くも懐川の薬師へ沖ま籠ありて通夜
 あつて落人の沖身あるまは公細く直宿のめいめい
 りさし湯つた脚するたやとほろあじうの別十人の脚士相結
 守後一きつるの由上をいふ沖感のあつた受外を賜る
 ままやけ卯月のほよりと一れあつたに一其に公をそり入
 ちろ大塔宮は親又梅の正成ある程む心なく世
 こつ物をえたりと公のこめらに一正成の金剛山千葉やと
 ちよよのうへに城公一うらもえもあつたまらぬまら
 ちくもつておらうと大塔の宮の金首と一國のまら
 つらつて東へはさしからあつたおらなむとまら
 ちよよのうへに城公一うらもえもあつたまらぬまら

増徳

六月陰崖
瀑布泉山
風吹下白於
綿龍綃織出
天孫手一足
素練不斷懸
峨眉山人



城

はらりわぐらなめくろくさきまはももいりたか
沖あつこをたはしあふくさくろくさきまはももいりたか
はつとせはつしんきふめいむわくさくろくさきまはももいりたか
中侍の十義歌の御土もいりたか
はつとせはつしんきふめいむわくさくろくさきまはももいりたか
中侍の十義歌の御土もいりたか
はつとせはつしんきふめいむわくさくろくさきまはももいりたか

趾

はつとせはつしんきふめいむわくさくろくさきまはももいりたか
中侍の十義歌の御土もいりたか
はつとせはつしんきふめいむわくさくろくさきまはももいりたか
中侍の十義歌の御土もいりたか
はつとせはつしんきふめいむわくさくろくさきまはももいりたか

延命寺

延命寺 本尊如意輪觀世音
延命寺 本尊如意輪觀世音
延命寺 本尊如意輪觀世音
延命寺 本尊如意輪觀世音
延命寺 本尊如意輪觀世音

百廿明神

百廿明神 神宮寺 本尊十一面觀世音
百廿明神 神宮寺 本尊十一面觀世音
百廿明神 神宮寺 本尊十一面觀世音
百廿明神 神宮寺 本尊十一面觀世音
百廿明神 神宮寺 本尊十一面觀世音

十念山具足院

十念山具足院 神宮寺 本尊十一面觀世音
十念山具足院 神宮寺 本尊十一面觀世音
十念山具足院 神宮寺 本尊十一面觀世音
十念山具足院 神宮寺 本尊十一面觀世音
十念山具足院 神宮寺 本尊十一面觀世音

大師堂

大師堂 法隆寺の像作し、西國に四國十八ヶ所と云ふ、此の寺は西國の第一の寺なり。天照大神、小祠二社あり。此の寺は西國の第一の寺なり。天照大神、小祠二社あり。

車岩の瀑布

車岩の瀑布 あり、此の瀑布は西國の第一の瀑布なり。天照大神、小祠二社あり。

長笠山

長笠山 別村の山なり。此の山は西國の第一の山なり。天照大神、小祠二社あり。

十二所権現社

十二所権現社 別村の社なり。此の社は西國の第一の社なり。天照大神、小祠二社あり。

長笠山之麓院願成寺

長笠山之麓院願成寺 別村の寺なり。此の寺は西國の第一の寺なり。天照大神、小祠二社あり。

然形之所権現社

然形之所権現社 山の上の社なり。此の社は西國の第一の社なり。天照大神、小祠二社あり。

鐘樓

鐘樓 寺の鐘を打つ所なり。此の鐘樓は西國の第一の鐘樓なり。天照大神、小祠二社あり。

観音堂

観音堂 寺の観音菩薩の像あり。此の観音堂は西國の第一の観音堂なり。天照大神、小祠二社あり。

飛泉

飛泉 寺の泉なり。此の泉は西國の第一の泉なり。天照大神、小祠二社あり。

千手のちりや法乃をふとく先

彼中夫掛 雲 江

千手のちりや法乃をふとく先 彼中夫掛 雲 江 寺の千手観音の像あり。此の像は西國の第一の像なり。天照大神、小祠二社あり。



伊勢
山
の
山

大正山

尾

願成寺

松尾

山

大正山

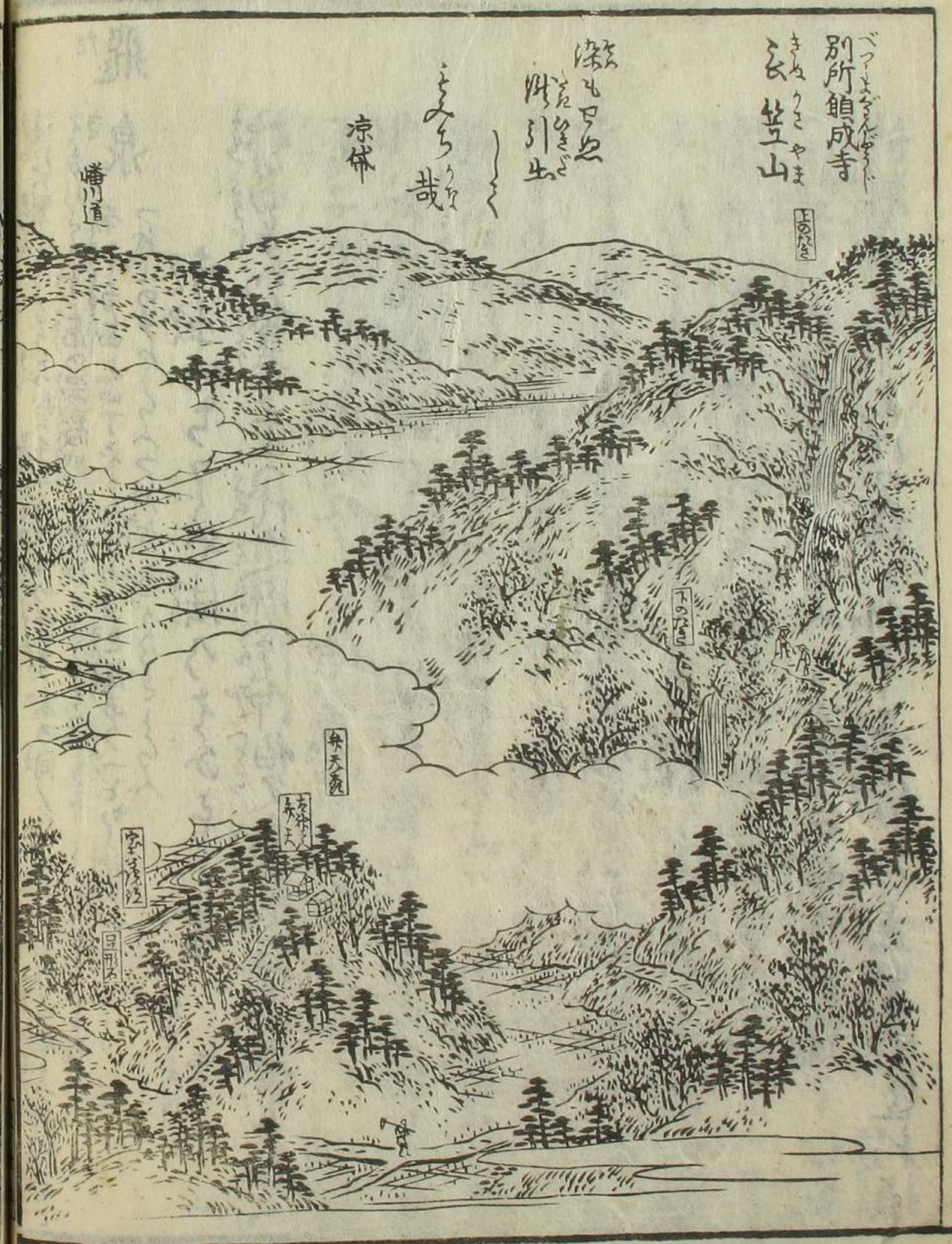
正法院

正法院

正法院

大滝

南



別所願成寺
まなうこやま
山

山

深
引
出

哉

涼林

潘川道

山

山

山

山

山

南

満ぼく... 願成寺

僧湛慶 奉讓渡別所之山地壹處事

在紀伊国三上院重野御奥山中

四至 東限峯道 西限谷世山

南限淵上黒山 北限自大野界迄千古田口

右件別所者是湛慶之三上院... 奉讓渡別所之山地壹處事

久壽二年正月

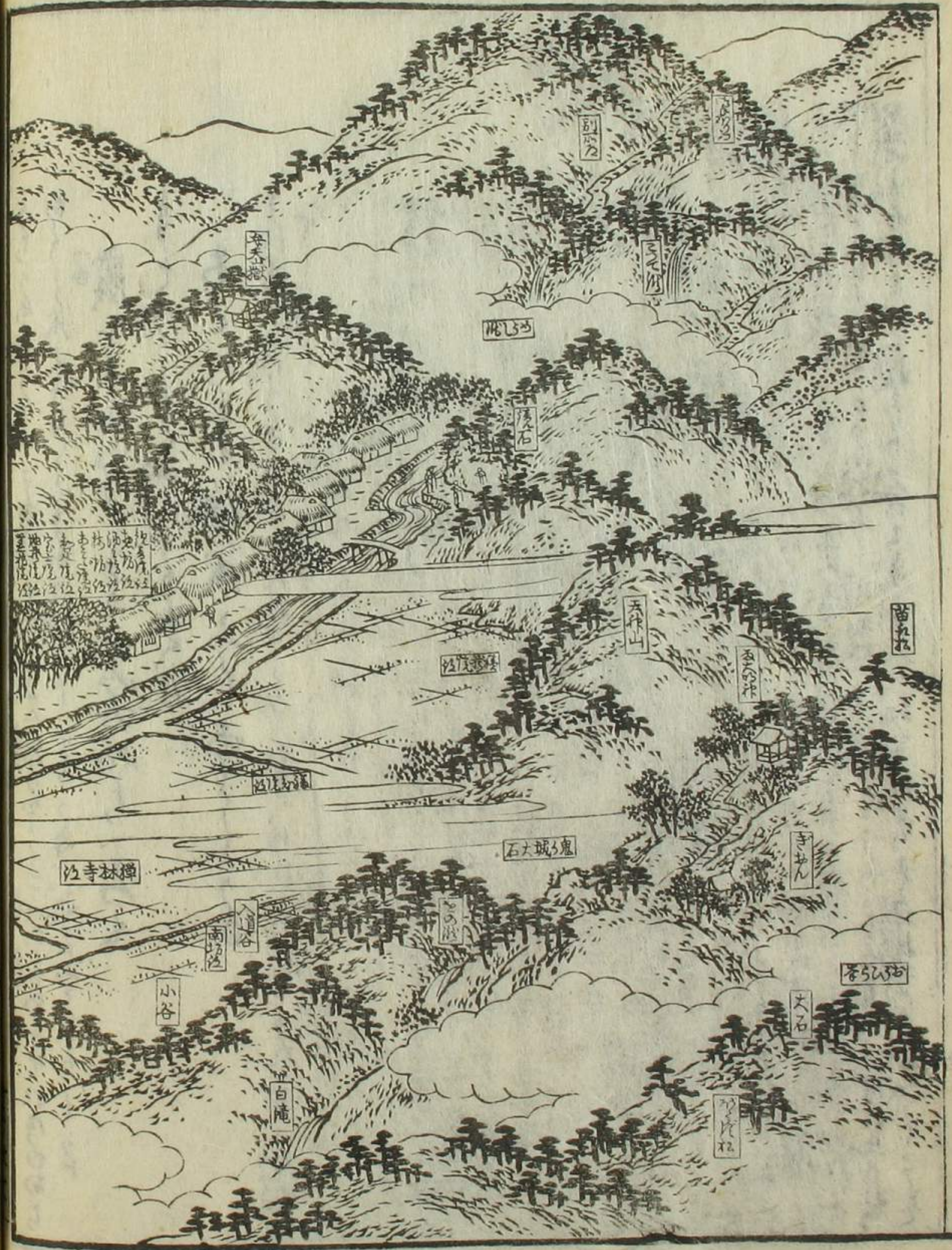
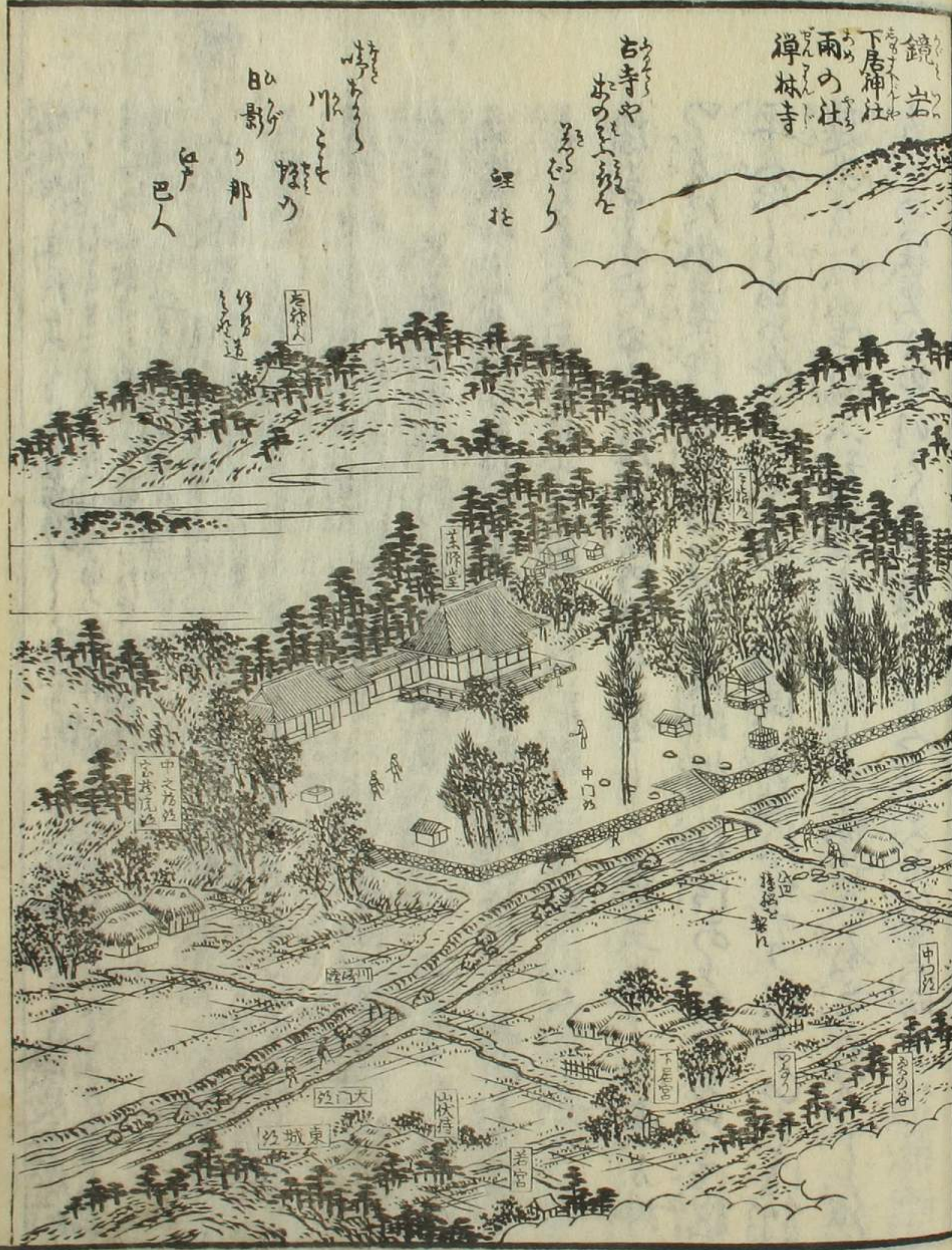
本願上人湛慶

西行撰集抄

西行撰集抄... 願成寺

瀑岩鏡

瀑岩鏡... 願成寺



幡川村の寺にありてとて... 幡川村の寺にありてとて... 幡川村の寺にありてとて...

幡川山禪林寺

幡川村にありてとて... 幡川村の寺にありてとて...

大原堂

大原堂の寺にありてとて... 大原堂の寺にありてとて...

眞守村

眞守村の寺にありてとて... 眞守村の寺にありてとて...

什寶堂

什寶堂の寺にありてとて... 什寶堂の寺にありてとて...

武皇帝沖影

武皇帝沖影の寺にありてとて... 武皇帝沖影の寺にありてとて...

二千佛画像

二千佛画像の寺にありてとて... 二千佛画像の寺にありてとて...

中門趾

中門趾の寺にありてとて... 中門趾の寺にありてとて...

わえ上人の影

わえ上人の影の寺にありてとて... わえ上人の影の寺にありてとて...

平念

平念の寺にありてとて... 平念の寺にありてとて...

建あり法燈燧

建あり法燈燧の寺にありてとて... 建あり法燈燧の寺にありてとて...

玄仁の冠

玄仁の冠の寺にありてとて... 玄仁の冠の寺にありてとて...

瑠璃光七佛

瑠璃光七佛の寺にありてとて... 瑠璃光七佛の寺にありてとて...

本舎色

本舎色の寺にありてとて... 本舎色の寺にありてとて...

如來法

如來法の寺にありてとて... 如來法の寺にありてとて...

魯王親王

魯王親王の寺にありてとて... 魯王親王の寺にありてとて...

山門子

山門子の寺にありてとて... 山門子の寺にありてとて...

礎石

礎石の寺にありてとて... 礎石の寺にありてとて...

階の吟

階の吟の寺にありてとて... 階の吟の寺にありてとて...

下居神社

下居神社の寺にありてとて... 下居神社の寺にありてとて...

雨の宮

雨の宮の寺にありてとて... 雨の宮の寺にありてとて...

苗取堂

苗取堂の寺にありてとて... 苗取堂の寺にありてとて...

早守山地偏寺

早守山地偏寺の寺にありてとて... 早守山地偏寺の寺にありてとて...

堂の階

堂の階の寺にありてとて... 堂の階の寺にありてとて...

早守字

早守字の寺にありてとて... 早守字の寺にありてとて...

地藏尊

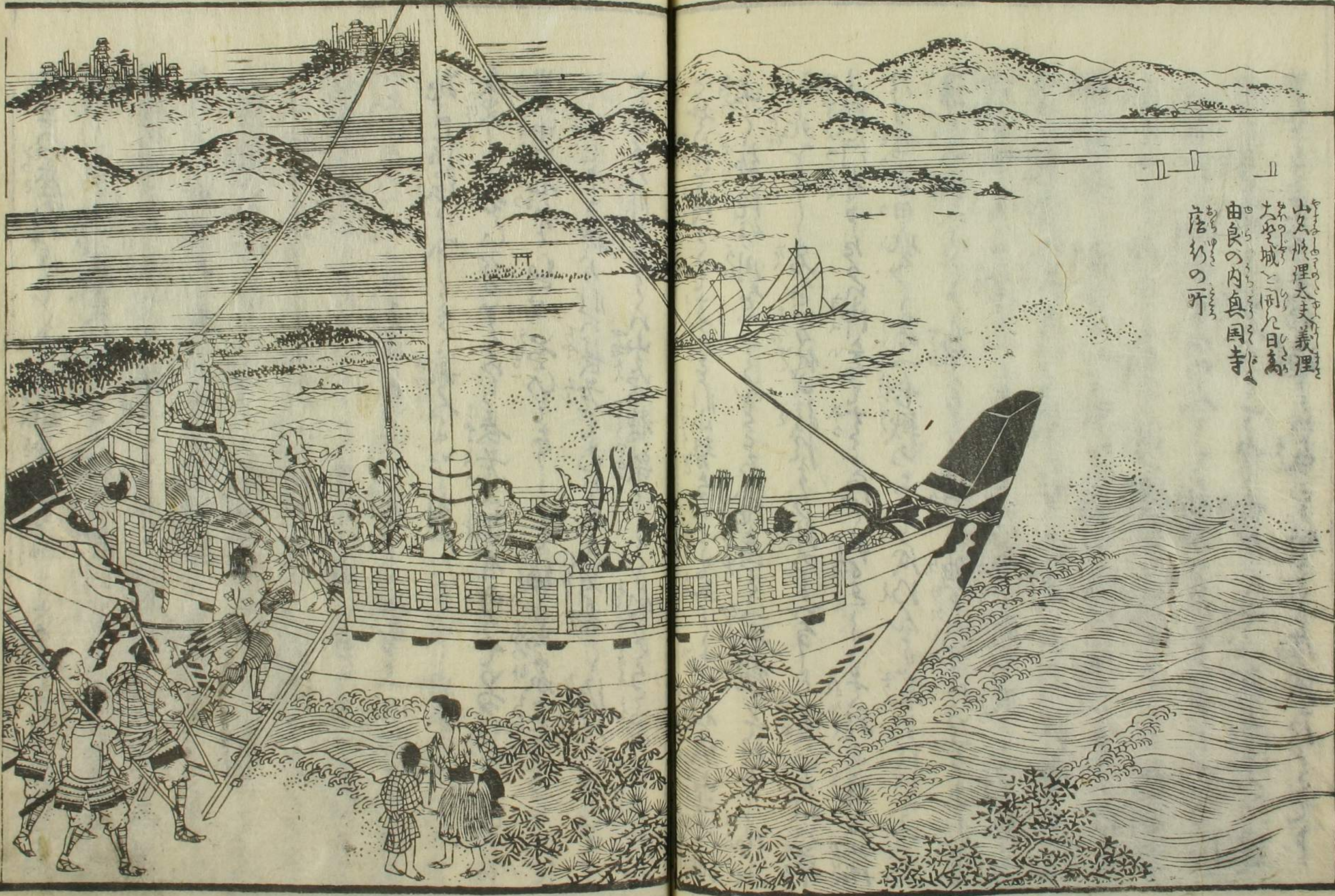
地藏尊の寺にありてとて... 地藏尊の寺にありてとて...

右内左京大夫義弘（孫）下其の城代奉行平井豊後
 公（孫）守るる者るる者永平六年の秋大内助及逆義弘畠山
 基國（孫）諺言とて泉州堺浦に合戦一基國が陣ふ
 つり畠山満家と討つこの勲功より紀伊国保後人
 つらた尚城守守護代に任ぜられ入道たり天文年間
 月筑前守に任ぜられたるは神保の美遊佐兵衛守
 おこし瓜守とて大内秀吉の畠山討入の功を以て
 將軍義満叙從二位康暦元年春正月南征使山名義理氏清
 等詣紀州之數城菊地下武家西州悉從屬武風天下倍靡將
 握通南朝者治奉故紀州之數城無援助資糧置兵力日
 尽義理聞之與氏清等（義理）合兵赴紀州圍數城河瀨川（陽）
孫六之孫左上九之數壘悉被陷義理衆弊又拔數城南方所築
京進守之之城僅亦坂千破劔（紀州）新宮之之城而已至是山名大

振兵勢南軍悉傾威義滿以紀州賜義理賞戰功
 其後中國安んずるに紀伊國に大内隆盛を以て
 人あめくねしとて内々免のて免れしとて二年内
 沖書のけはまを思案しとて終つる間石義の氏清は比
 とて下し終つて沖免もするに終つて大内隆盛を以て義弘二
 月十二日都立しとて泉國に地下り義理退治しとて西國
 の兵船百餘艘に分國のほりめりとてとて紀伊國に押つり
 わちゆと玉將女紀の清より攻入一戦は雌雄を以てしとて
 堀手のふりてををりて免れしとて泉國の堀より立ちて合戦勢
 一千餘騎畠山の府に陣とて山名隆盛のあがりとををり
 今草山駿河守に美作勢を擄討つて合戦勢七百餘騎維の
 の切所とて塞とて雨山土丸に楯籠とて討手の敵を待たたりと
 まり今度都の合戦はあがりと天下の勲功ありとて氏清後

幸武勇たゞるはきりし義理のいぬひらけぬ紀伊國を
故對の合戦いあんと人々を惡くせしむるも赤松上総助
義則はち播磨支國のなご千餘騎をこすなりけり美作國
に及ぶ國中物ありしをりし雨に二丸たりたるを紀伊
もゆかりしとて大内を夫が以て案内をとりて白昼に
丸とあつて降卒をこりて上総助のかりたる山を分ちて
合戦とすしかともりたる山後河守もた丸はたき
夜白とせあつたりたることなりけり紀伊國もきつた内
か降卒も義弘の兵隊ありしを義理の兵に見減し
今百騎にたゞしなりけり甲斐もきつた事もある
まゝに敵の攻ちりけり女姓も人々を思ひ
なむにたゞる二月廿二日の暮は軍の肉談しけり
修理を夫のたゞしなりけり

とせ敵と待ともせんといふ勢ありしとて出た佐山に地
上へ敵紀伊川をりしとて池集り合戦とせなり榎小
討死ともいふを代にたゞし外のありとてさういふ草
山駿河守もつれりしとてはたきも是れは丸谷流
たるは甲斐もあつ合戦のちりけりなむにたゞし上
海も國人といふも敵もりけり地下人等たりしとて
甲斐幣もいふとて討死ともいふを京都市
のちも恩賞の忠といふらんたゞしありけり
彼の堀溝にたゞし一人のたゞし大死とていふも
然るのちいふとて追て京都へも敵もりけり
つらむに流るるもかの人とてたゞしありけり
たゞし多るるべしけりといふも命も今つらむとて
口んといふとて夫の道にたゞしありけり



山名 惟理 大 夫 義 理
大 城 之 内 日 高
由 良 之 内 真 國 寺
唐 之 所

谷を震とて... 神風や... 出給下畧

日敷と重... 神風や... 出給下畧

久高浦... 本海之... 故爾人九

日... 崇之... 作者未詳

日... 崇之... 作者未詳

日... 崇之... 作者未詳

日... 崇之... 作者未詳

日... 崇之... 作者未詳

日... 崇之... 作者未詳

紫川... 日浦にあり... 信定おれ

色... 信定おれ

色... 信定おれ

井原古戦場

詠日... 井原古戦場

花田... 井原古戦場

花田... 井原古戦場

花田... 井原古戦場

花田... 井原古戦場

蘭夷の夷

吉... 蘭夷の夷

吉... 蘭夷の夷

吉... 蘭夷の夷

地藏堂

日浦... 地藏堂

日浦... 地藏堂

日浦... 地藏堂

心山念寺

日浦にあり

奉る河内陀佛

安んずる他海も用臺つみ

観音堂

日浦にあり

廢極樂寺

日浦にあり

弘神社

日浦にあり

船津沖宗神社

日浦にあり

柳の舟戸

日浦にあり

一の鳥居旧跡

日浦にあり

後戸王子

日浦にあり

仙臺山浄土寺

日浦にあり

奉る河内陀佛

安んずる他海も用臺つみ

龜井六郎

日浦にあり

岩修理と夫義記の碑石

日浦にあり

當ちの桐久藤沢寺一遍上人の圓臺あり

義理の菩提所あり

部々を臣利と有縁あり

又日浦にあり

鬼神のていとい

ていとい

竹のふちこの送りか

魘魅に托

支物(日星)

龜井の泉

日浦にあり

中霊の神社

日浦にあり

小中山誓言院観音寺

日浦にあり

奉る河内陀佛

安んずる他海も用臺つみ

大師堂

日浦にあり

友白墨

日浦にあり

家集

あつた

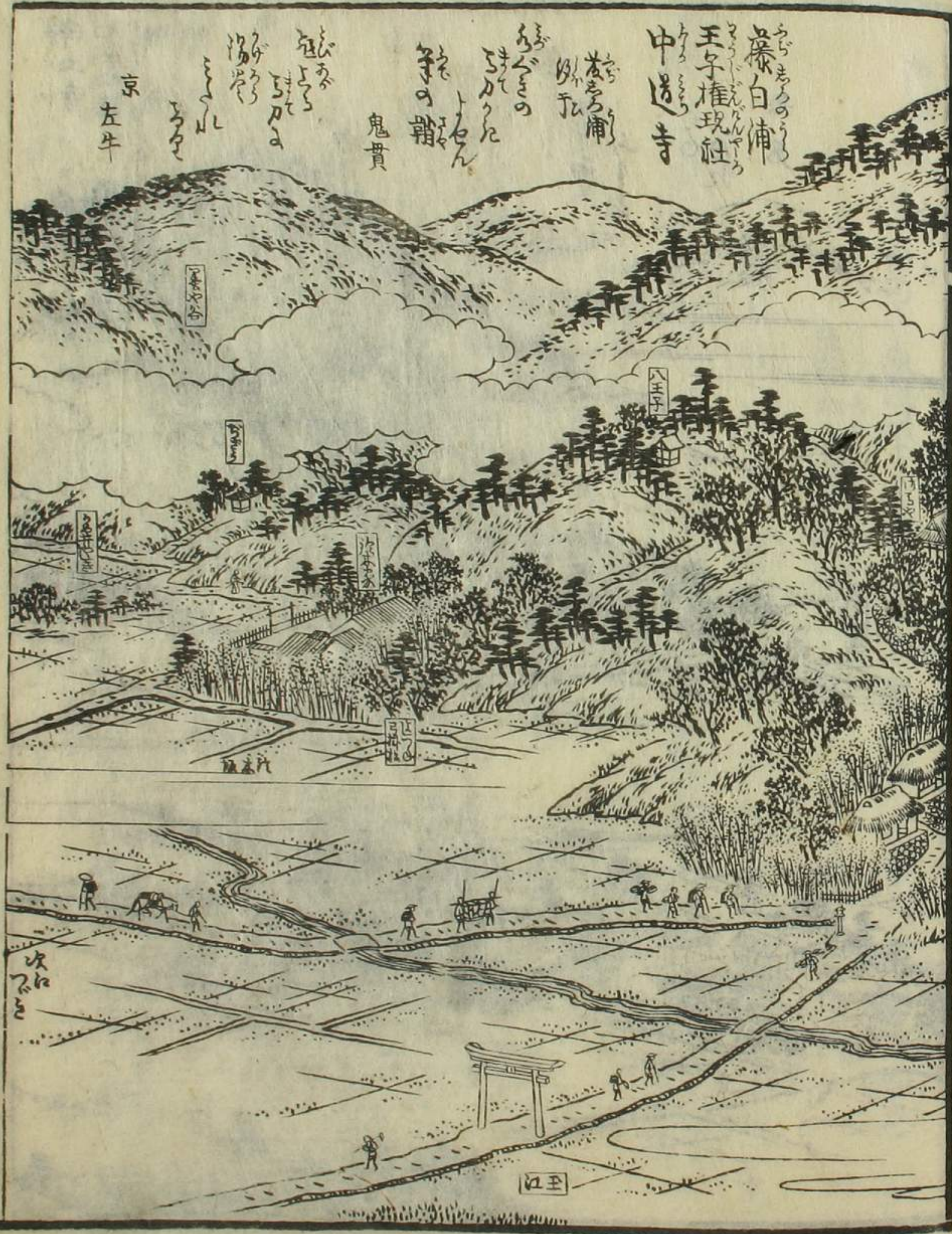
支墨の八皇十六代

筆墨の

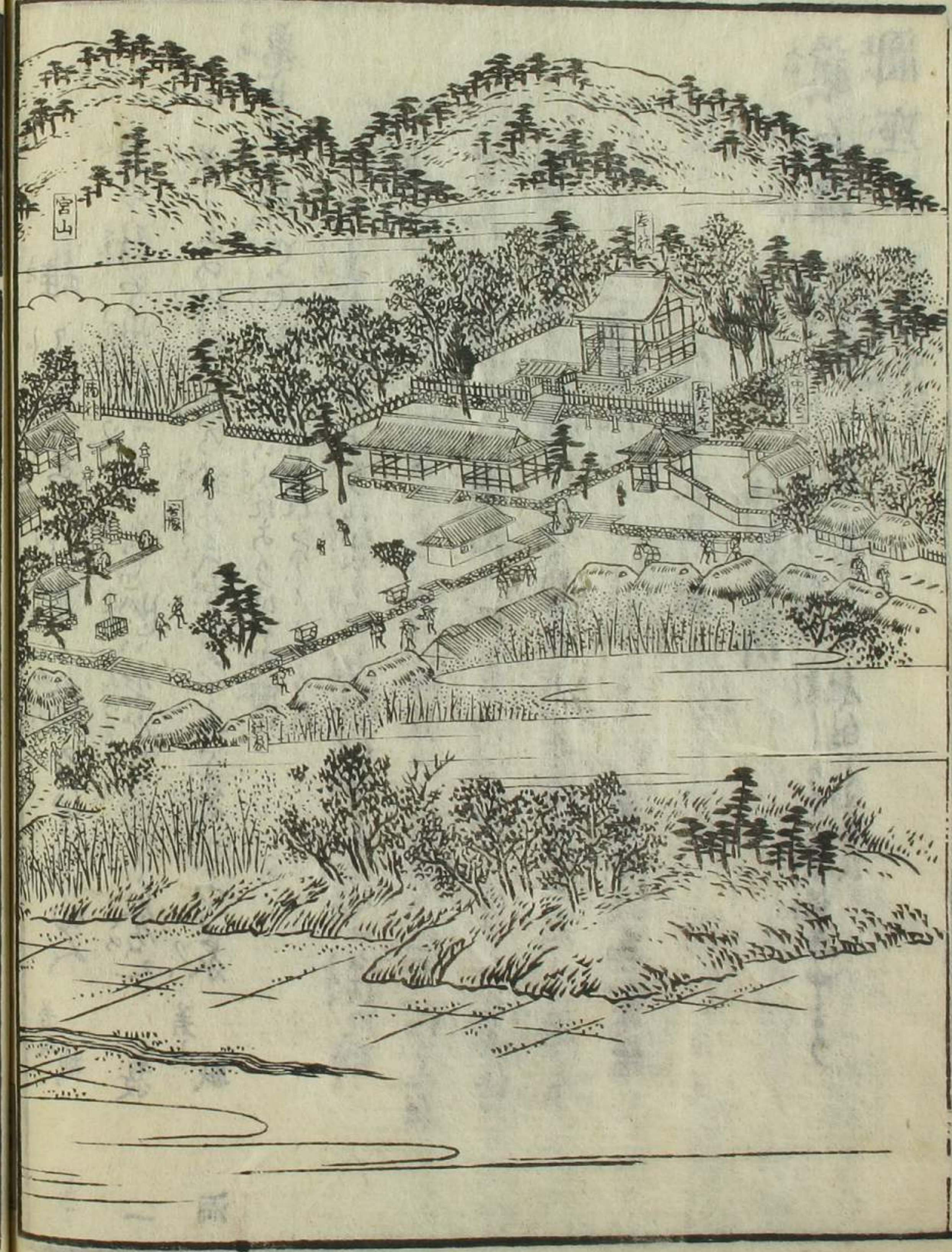
僧墨の

日

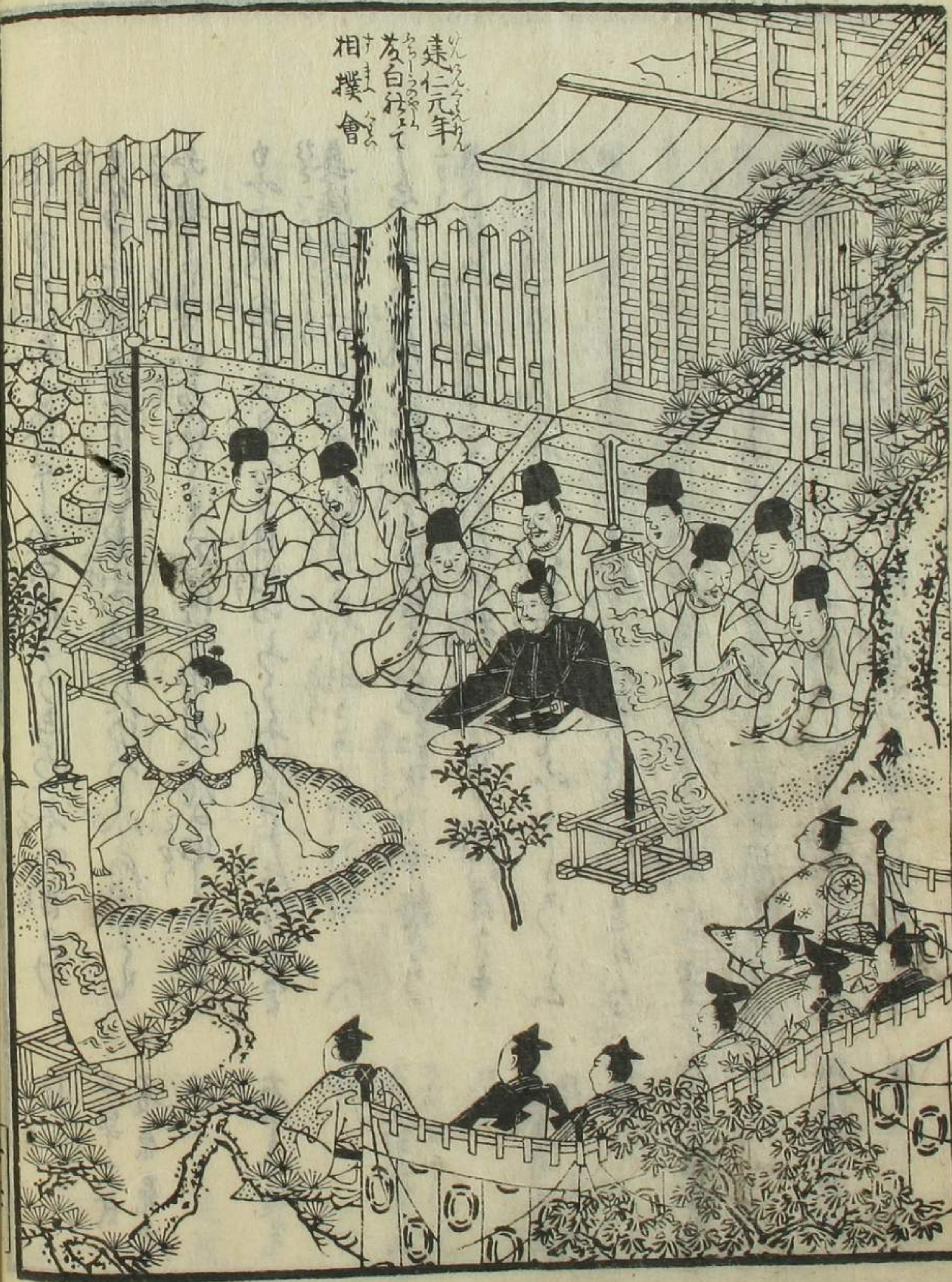
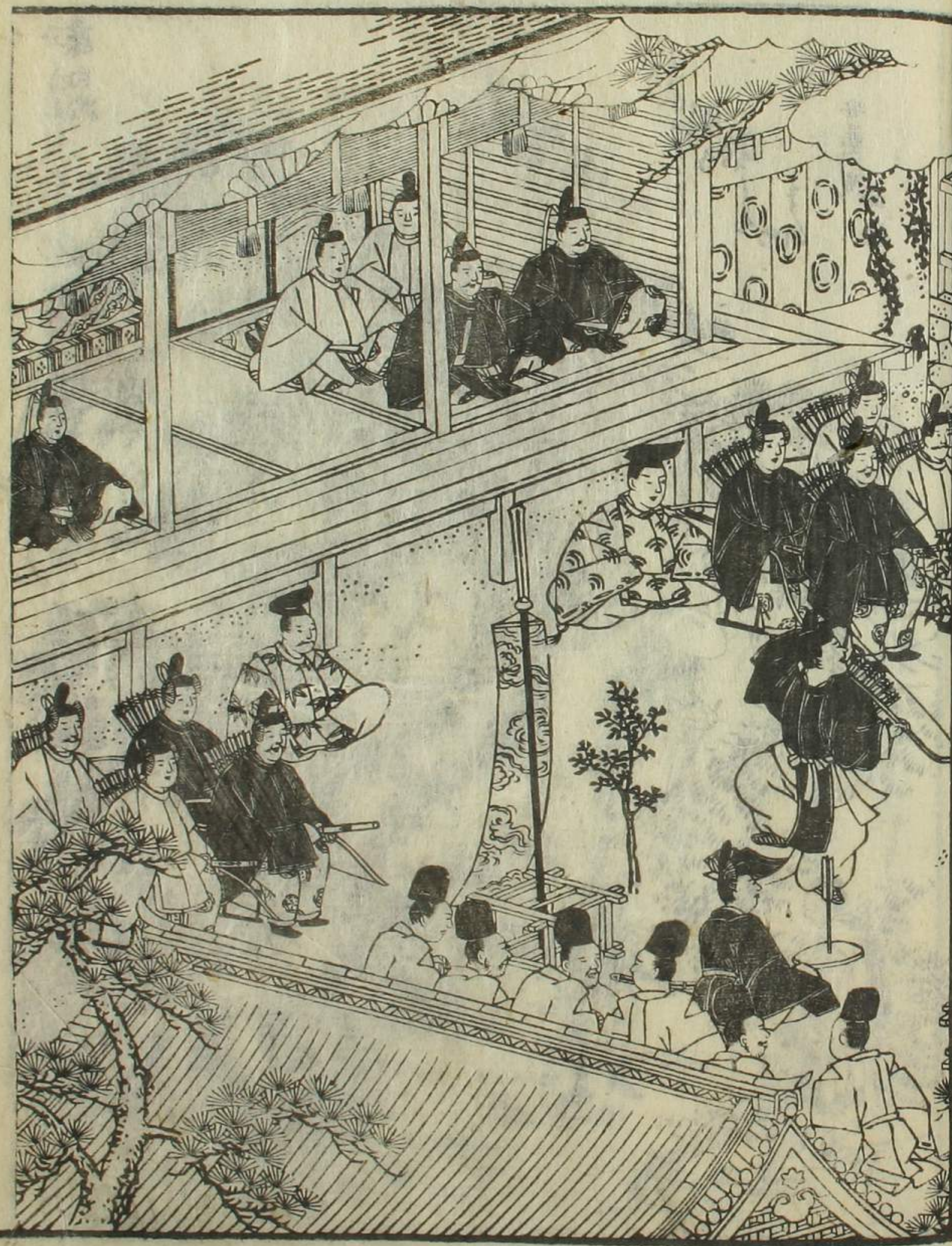
冷泉も重



京 左牛
鬼貫
中邊寺
王子権現社
藤白浦



宮山



建仁元年
友白行
相撲會

藤白松



皇太后少進
長原信綱

日

右馬助源朝臣
家長

日

る原信範

日ちたつる松の枝の茂る葉も日ぬれもささやけり耶
 風舞もさやけ海士のりぬるもささやけり耶
 百千鳥の身の後たけのりぬるもささやけり耶
 塩風やぬるの日にぬるもささやけり耶
 石の居
 當社の鎮座を久遠よりたてし世の帝王絶つて
 行幸ありしことも絶つて
 のちふたつた訪りしにわらわも久安四年の春
 文明六年三月十八年を長二年の梅は花古帖なるを
 所の子社に建てる行幸の御想所とたまひますなり

然拜之所大推視之遠拜之地

心た日やゆいおくるる九十九所

鯉風

藤白王子

藤白王子の御事

松山宮大寺院中道寺

王子権徳の御事

親孝

親孝の御事

友白仲坂

友白仲坂の御事

万葉

藤白之三坂乎越跡白榜之我名于者所沾香裳

續後

友代の三坂乎越跡白榜之我名于者所沾香裳

續古

友代の三坂乎越跡白榜之我名于者所沾香裳

新千

友代の三坂乎越跡白榜之我名于者所沾香裳

新後

長手の三坂乎越跡白榜之我名于者所沾香裳

丈夫

みまらひみまらひんる白の山

日

友白の三坂乎越跡白榜之我名于者所沾香裳

花名并

友白の三坂乎越跡白榜之我名于者所沾香裳

暮

友白の三坂乎越跡白榜之我名于者所沾香裳

日本紀齊明天皇三年秋九月有間皇子性點陽狂之往
牟婁温湯修療病未讚國體執曰纔觀彼地病自蠲消
天皇聞悅思欲往觀之四年冬十月庚戌朔甲子幸紀温湯
十月庚辰朔壬午留守宮蘓我赤兄臣語有間皇子曰天皇所知政事
有失矣大起倉庫積聚民財也長安分渠水損費公糧二也載石
於舟運積為丘三也右間皇子乃知赤兄之善已而欣然報答之曰吾
年始可用兵時矣甲申有間皇子向赤兄家登樓而謀夾膝自斷
於是赤兄之不祥俱明而止宿夜半赤兄遺物部朴井連齧
率造宮下圍有間皇子於市經如便遣驛使奏天皇所戊子
捉有間皇子一本有間皇子二十九歲送紀温湯之於是皇太子親

問有間皇子曰何故謀人答曰天与赤兄知吾全不解 庚寅

綏有間皇子於藤白坂云

此所城上古春明天皇年聿の温湯之市幸まら比有間皇子
蘇我赤兄臣に謀りて天皇を弑しまわらん
殺したる地なるは紀伊國の路多岐嶮なる南
嶺の諸洲目下に棗置き此の凡そ千餘方は奇と
多と供し賜目とるふ多橋腹あるは昔自巨勢が今長
に登臨し其景は摸せん
下れ筆は投し奇絶と嘆せしむ坂の七成をり
筆松とてありすみららるる世
國君より心なるとは標とてあり

羅山詩集

紀人謂余曰藤代距弱浦一里餘其凡を奇南洋道

諸州全在目下者巨勢氏會此將畫其壯觀而不然之迹
輟翰于松下俗所謂金岡葉筆松是也余因之終乃而不
果於是相像賦一絶

聞說紀州藤代峯南洋絶景目前供人言詩是右聲
畫欲挂金岡葉筆松

藤城

那波送圓

駐馬藤城望大洋渺茫烟水洗愁腸金岡擲筆雙
松下應似青連登岳陽

藤城暖霜

嵐霽春深暖更龍山容日霽轉朦朧一痕黛色
烟江杏妝出文君明鏡中

於秋

此處の山は昔の藤原氏の所領なりて其の地を
いけりて今も藤原の所領なりて其の地を
畫

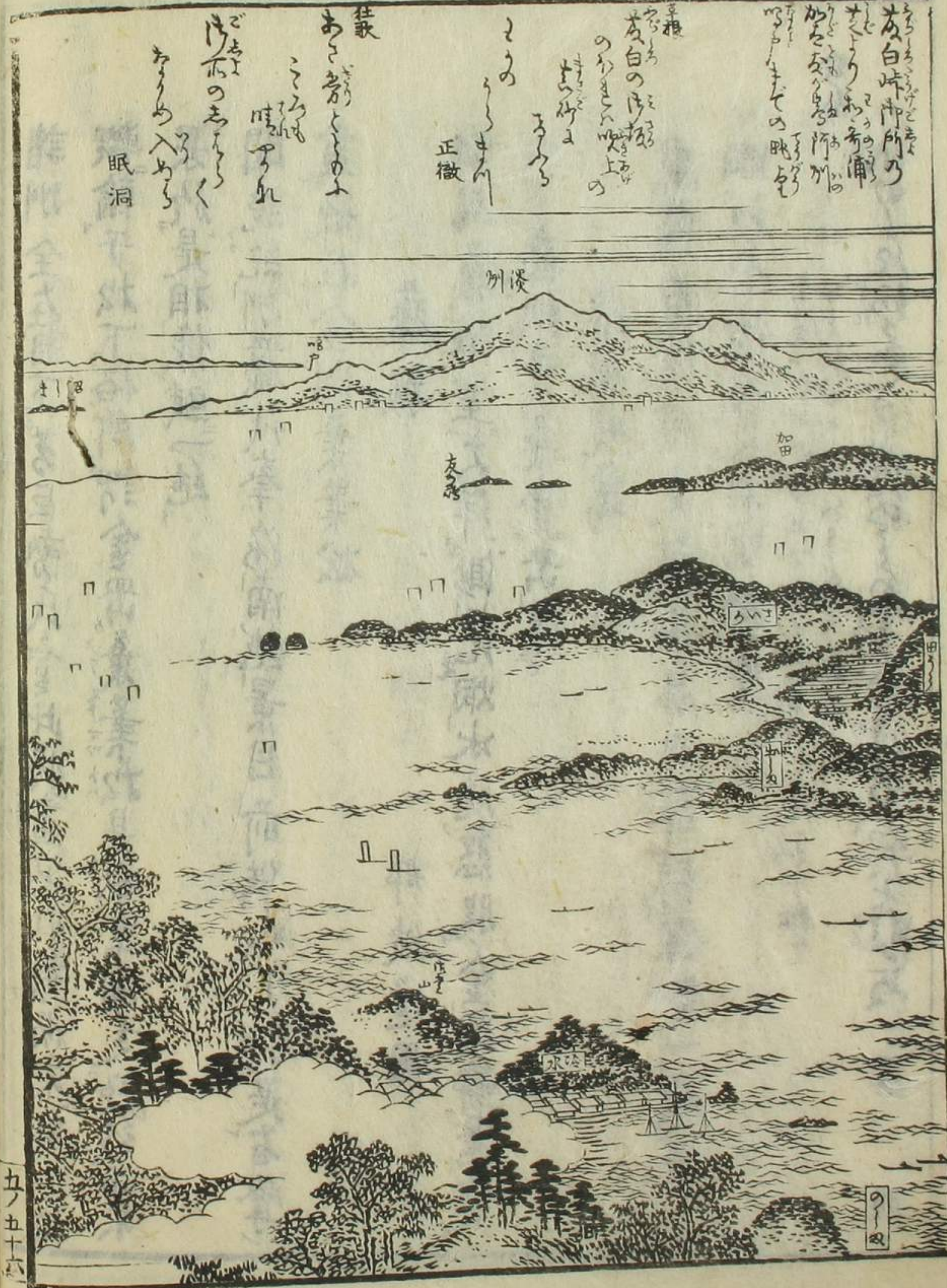
圓



南紀黒江
雲城

風景の佳し

元禄代迄



友白峠の所乃
たよりありあふ備
加を交ふ所行か
るべしとの時銘

友白の所乃
のわきま吹上り
の
たよりありあふ
るべしとの時銘

正徹

正徹

往載
あつたつたのよ

つたつた
つたつた

つたつた
つたつた

つたつた
つたつた

眠洞

別溪

加田

友白

五ノ五十六

筆をもち各持まのりはろりり耶

伊勢 千風
若山 松 牛

藤代堂

藤代山の名のふりかへりしは、
藤代山の名のふりかへりしは、
藤代山の名のふりかへりしは、

夫本 秋葉のすゑやめる 花代りねのそとて 花がたを 定 意

友のゆきをよもふらんをよらあと ち ちん

白くちやまのりのもりのちのちのちん

藤白関屋趾

藤白の註より、
藤白の註より、
藤白の註より、

冥ふもくくくくくくくくくくく

飯盛山

飯盛山の名のふりかへりしは、
飯盛山の名のふりかへりしは、
飯盛山の名のふりかへりしは、

守る河津池佛

表書曰方便法身形大各本銘と親す如判延徳四年
十月廿三日紀伊国名所於法多返場孝信お也 銘と親す寶

抑通もつ本領寺第八世法印松大傍都大和尙位兼春吉如上人

州創り文の八年春運如上人河内国出村より然際之と云へ

の二子修初子病らあうく終よめゆるらな夫婦天小地小

咽び泣き涙も垂れ喚ぐよなきくもねおをくはるる

いごちうは世の母を瓜観トく善抱にさほほ出離のち

涙ももめんさくは那が茂谷榎本岩もまを千手菩薩

おん夢然大士昔白海らよいつのなをちり悲みく生れく母

名を愛ふのほりかめありきいふはま夫婦をく善抱

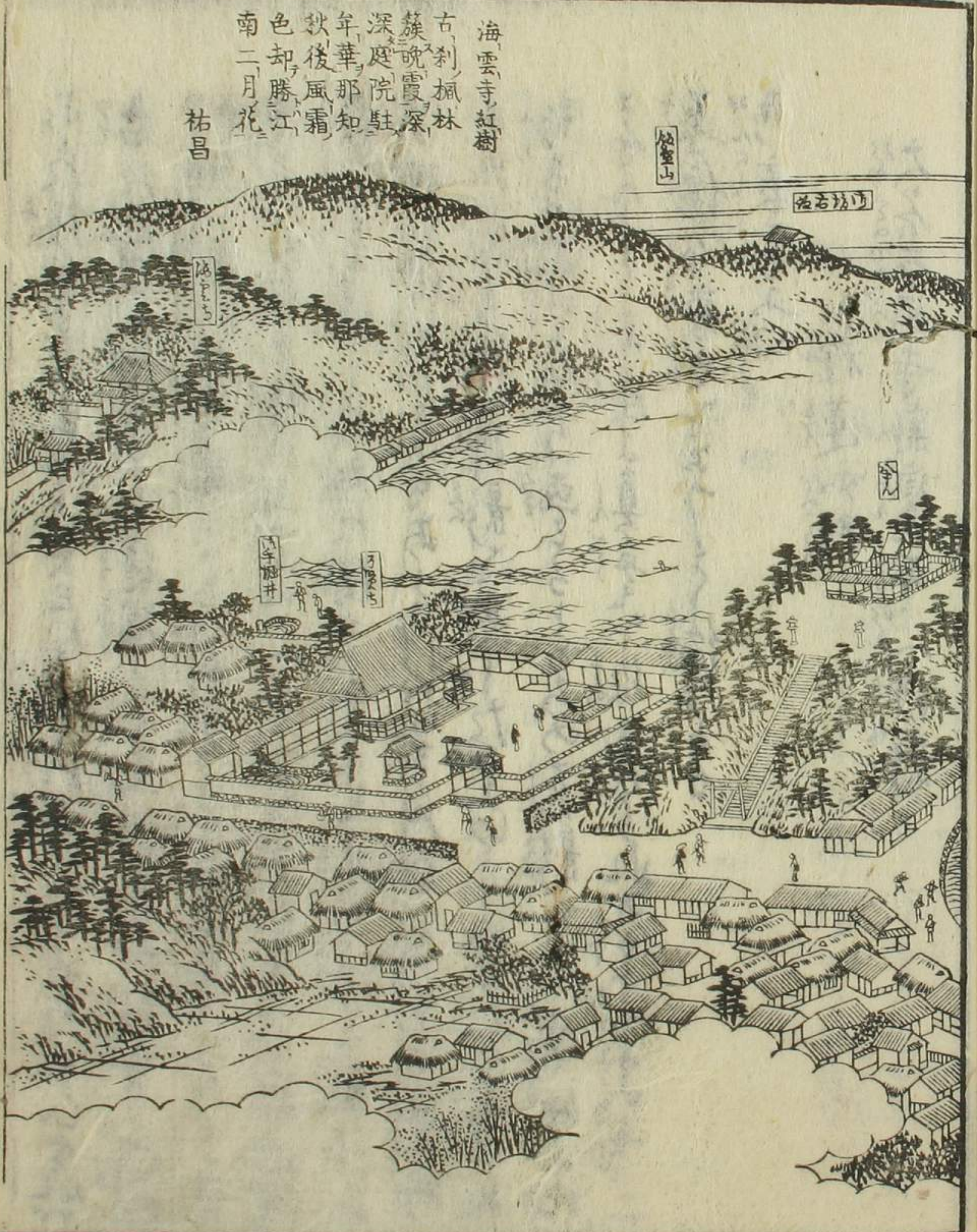
のほりかめありきいふはま夫婦をく善抱

らん初めのほり相持善縁の要路とよひくくくくく

まを愛ふのほりかめありきいふはま夫婦をく善抱

よるに翌朝をゆく夜白峰の峰に山をまわり果しては五のあり
たしむるに夫よりいふまゝに世の昔はあはれいふに
もたれに世の昔はあはれいふにたれに
念の命のまゝと受給へあはれいふに
よるに翌朝をゆく夜白峰の峰に山をまわり果しては五のあり
たしむるに夫よりいふまゝに世の昔はあはれいふに
もたれに世の昔はあはれいふにたれに
念の命のまゝと受給へあはれいふに

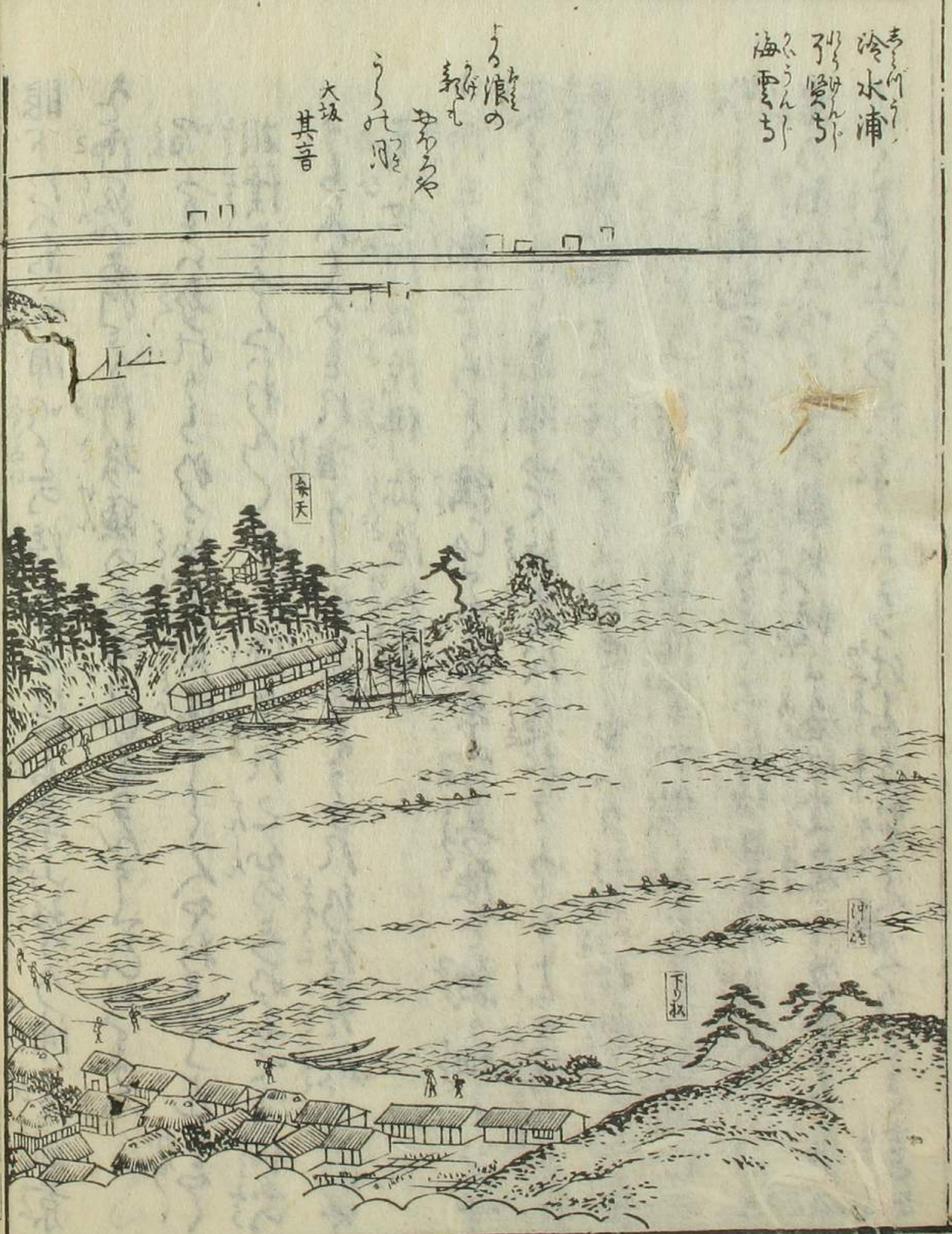
眼下のわが浦の後のまゝに草山登り浦を風景
を沖流るるに沖流るるのありあつたまゝに
唱へてあはれいふに極楽の遠く人やおのりん
相續するにわが浦のまゝに世の昔はあはれいふに
うらみはまゝに唯うらみをまゝにたれに
たれに世阿弥の佛の如來
浦手紙とらうに世の昔はあはれいふに
まゝに浦のまゝに世の昔はあはれいふに
かたが浦のまゝに世の昔はあはれいふに
あはれいふに世の昔はあはれいふに
のこし南紀のまゝに世の昔はあはれいふに
者乃教のまゝに世の昔はあはれいふに
しるまゝに世の昔はあはれいふに



海雲寺紅樹
古刹楓林
深院霞深
年華那知
秋後風霜
色却勝江
南二月花
枯昌

松聖山

石石坊



冷水浦
孤舟
海雲寺

大坂
其音

松天

下

たれ陽かともあつて廿日にも河原へゆきもたれいれ
急れ己が屋敷より道場へ山林とすも飯堂とす
此冊西少々に造達し心ならず其の年十月三日
連大土の地をゆき出ひつて上人へまことの宗門海濱
莊内ふえは一日静に湯をくも末道場より安ん
寂然の沖影とくもあつて是れ心鏡にたること
とありし自因の沖影とすたまきしと曰く此れ富田教
わりのあつたより画とすそのま影とす幸海より
とせんとも馬座より真上とす深とす此れ九字十字并二
尊像乃裏とすとありて終つたる
寺裏書と曰

釋蓮如判
大谷本願寺親皇舅西人沖影

此沖影攝洲場上郡富田教の寺堂にあり也
雖然外紀紀州河内郡清次道場とす西寺

定之物也

文明八年丙申十月廿九日

願主釋了賢

是尚一宗の靈塔とす今時爲其沖影に安ん
つた文の十八年三月八日泉州坊浦より西寺ありて日
根那海生寺にありたりとありてまより道園名草郡七尾
十日に黒江の濱よりありたりとありて詠にたり
寺の岡にありたりとありて岩間とありてありてあり
中々當浦よりありて沖影は依と勸ありたりとあり
位なる日影の内大柄のものありとありて上なるは



藤白峠ゆく
蓮如上人の浦
喜六の主人
たまたま



と云ふを以て心獲得の冲文章と書製述すむたは沖文の
 著との海に二尊沖合粹の沖文と書せり其来由最知
 ん獲得と云ふは十八箇と云ふはと云ふはと云ふは
 次乃又と業一なる因縁を人堂中た顯りてあはれ
 形をの得るはくつ南無河法院仏のまゝに成り得るは
 おりてしはるもまゝ成りたるはくつ法院正に
 僧人の法客の畏のまゝに成りたるはくつ運縁は次
 のありねむりのまゝに成りたるはくつ如縁を人の書
 ありしはくつ法客の畏のまゝに成りたるはくつ南無河法
 院仏のまゝに成りたるはくつ其後の沖文と云ふは
 と云ふはくつ二尊乃冲影をわくつのはくつ沖文と云
 はん標標りてまゝに成りたるはくつ法客の畏のまゝに
 成りたるはくつ其後の沖文と云ふはくつ其後の沖文
 と云ふはくつ其後の沖文と云ふはくつ其後の沖文
 と云ふはくつ其後の沖文と云ふはくつ其後の沖文

化のはく

十年を本上人の法華の修行の世の中

身にならう又日彼盛出う物なる僧人と云ふたわん

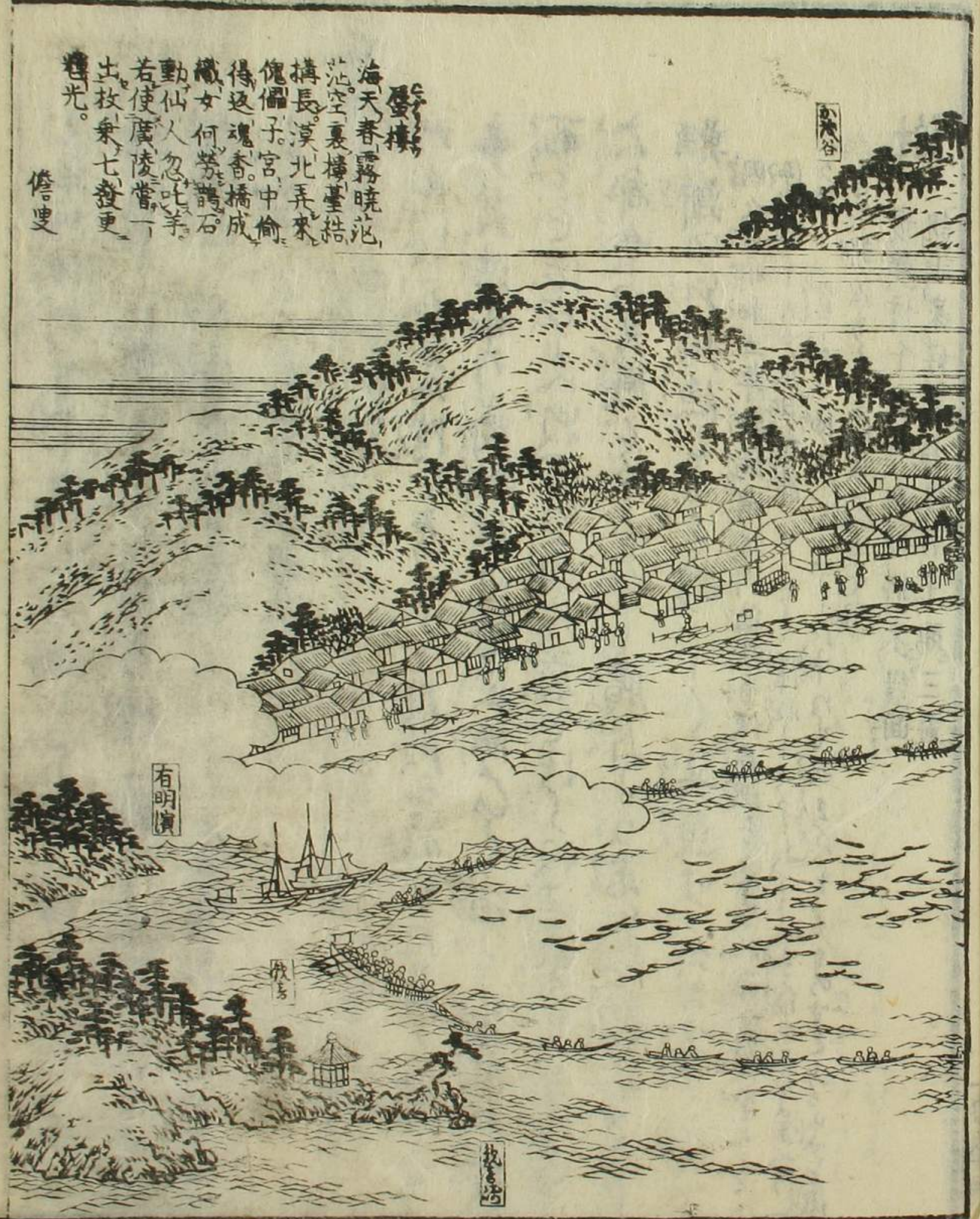
法院のいんはるるはくつ其後の沖文と云ふは

ことばを山と法客のまゝに成りたるはくつ其後の沖文
 をうづねたるまゝに成りたるはくつ其後の沖文
 といふはくつ其後の沖文と云ふはくつ其後の沖文
 といふはくつ其後の沖文と云ふはくつ其後の沖文
 と云ふはくつ其後の沖文と云ふはくつ其後の沖文

ことばを山と法客のまゝに成りたるはくつ其後の沖文

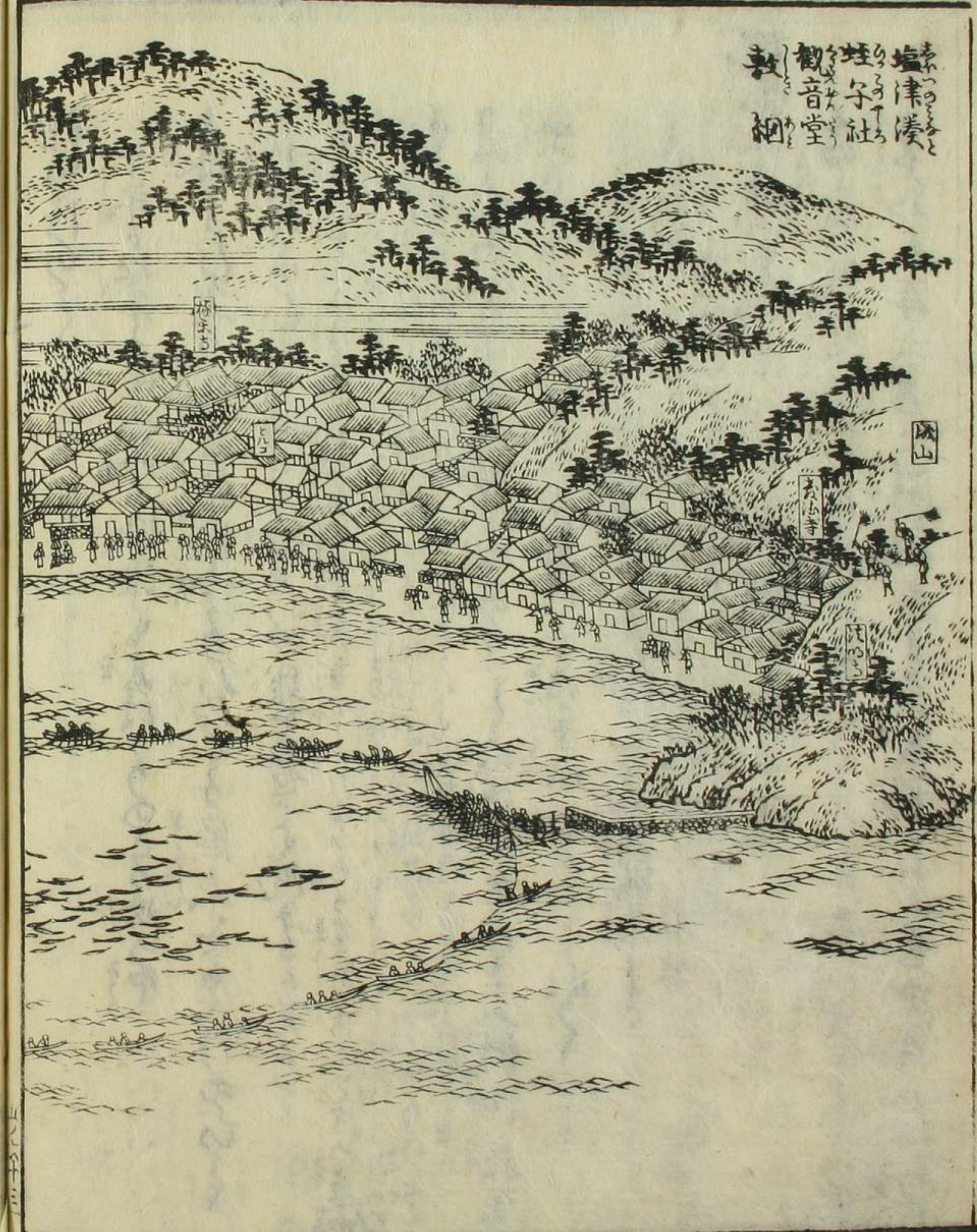
楞伽の海中の修行の世の中

法客のまゝに成りたるはくつ其後の沖文と云ふは
 といふはくつ其後の沖文と云ふはくつ其後の沖文
 と云ふはくつ其後の沖文と云ふはくつ其後の沖文
 と云ふはくつ其後の沖文と云ふはくつ其後の沖文



登樓
 海天春霧曉
 池空裏樓臺
 構長漠北弄
 傀孺子宮中
 得返魂香橋
 織女何勞
 動仙人忽吐
 若使廣陵當
 出技乘七發
 更
 舊光

倭史



津
 子
 社
 觀
 音
 堂
 教
 網

山

右明濱

技

とや此彈利きまらわらば海剛くく清月弾心と忍し
後少翠の穂くく帯る儘くく一書院の屋中
白梅あり早まきあやの芥くくくくくくくくくく
新陽のうらやまありあり

塩津の美

此山門のうらやま湾とまうくく風波をぬくれりもたろ
あしは住来り商船はひらこく山隈くく泊くく風波の
下とく港口のうらやまの商船はひらこく山隈くく泊くく
大都會にも減くくくくくくくくくくくくくくくく
鯛鮓のうらやま魚くくくくくくくくくくくくくくく

謝 歩難行千里外。在 他郷未得回。
詭譎家好美酒。得君王賜二三盃。

其後紙園師接先南海先生
國君の命と奉くくくくくくくくくくくくくくくく
師接先生詩のうらやまくくくくくくくくくくくくく

贈揚金生

養霞紙師接

兼葉之露霞葉霜雜 總秋寒水一方。人間愁苦
無至別渭樹江雲古斷腸。与君相識未相親。別此生
兩花くく言不可通情可通。多情觸物夢魂長。一鐘飲月
寒山曉。不意相憶倚塗床。

然山神水送路。多情欲説口氣息。憐君夜
逢定多。教入武声曲くくく

蛭子神女 月うらやまあり 志社 八幡大菩薩 空母林
慈眼山普賢院神宮寺 本寺の生土神 本寺の生土神
大師也

中村

西国三十二ヶ所
 本号十二西之現世
 動る也

わらうの...
 西国三十二ヶ所...
 本号十二西之現世...
 動る也...

紀伊國名所圖會卷之五

紀伊國名所圖會卷之五
 紀伊國名所圖會卷之五
 紀伊國名所圖會卷之五

中村

